2016年度　藤沢白門会の活動

第22回定期総会で力強く挨拶する片岡会長（平成28年4月24日）

川崎白門会の主宰した川崎港海上クルージングとのコラボ（平成28年8月24日）

2016年度　藤沢白門会の活動

多摩キャンパスの晴れ渡る空の下、ホームカミングデー開催（平成28年10月23日）

「中央の絆」の中、クレセントホールに雄々しくはためく藤沢白門会旗（平成28年10月23日）

2016年度　藤沢白門会の活動

歓談する片岡会長はじめ藤沢白門会の面々（平成28年10月23日）

神奈川県下合同白門会に集う（平成28年11月12日）

2016年度　藤沢白門会の活動

名城松本城を背に、中信支部記念行事に参加したメンバー（平成28年11月28日）

思いを新たに、新春のつどいに集合！（平成29年1月28日）

第 21 号　目次

グラビア
会長挨拶　『次のステップに向けて』
　中央大学学員会藤沢白門会　会長　片　岡　久　興 …… 6
特　報　リオ五輪＊陸上 400m リレー
　飯塚翔太選手（学員：平 26 法）銀メダル獲得！ …… 8

会員随想
学生時代の思い出　白　石　桃　子 …… 11
片山哲先生が愛読した「小公子」翻訳者
　「若松賤子」日本最初の外国文学女性翻訳者　髙　島　良太郎 …… 12
日々時々詠む　服　部　　治 …… 14
秋日雑感　鉢　蠟　　博 …… 16

藤沢白門会の行事活動
第 22 回定期総会開催
　－ 25 周年を見据えて新たな発展へ－　吉　田　弘　明 …… 19
新たな出発を寿ぐ～平成 29 年新春のつどい　井　出　　豊 …… 20
中大箱根駅伝、連続出場 87 で止まる　城　崎　芳　彦 …… 22
第 20 回 SUC 親睦交流会　澤　田　英　樹 …… 23
第 16 回神奈川県合同白門会
　箱根駅伝への熱き思い　是非復活を !!　吉　原　和　義 …… 24
第 25 回　ホームカミングデー
　中央を超える、中央へ　はばたけ！　吉　原　和　義 …… 26
第九回若手懇親会ボウリング大会＆パーティー開催　杉　山　　洋 …… 28
長野県中信支部創立 65 周年記念式典出席について　城　崎　芳　彦 …… 30
平成 28 年度第 1 回役員会＆暑気払い会　杉　山　　洋 …… 32
社会福祉活動委員会報告　原　　輝　雄 …… 33

サークル同好会活動
ゴルフサークル　川　俣　　誠 …… 37
囲碁サークル　長谷川　　勇 …… 40
音楽鑑賞サークル　座　間　　毅 …… 42
写真サークル　増　田　隅　雄 …… 46
緑と歴史散歩サークル　澤　田　英　樹 …… 48
白門サロン会　林　　孝　靖 …… 51
レディスサークル　端　山　徳　子 …… 52

母校の近況 …… 53
藤沢白門会会員名簿・新入会員・物故者・組織図 …… 59
藤沢白門会讃歌　中央大学校歌　応援歌　惜別の歌 …… 62
お願い …… 66

次のステップに向けて

藤沢白門会
会長　片岡　久興

一昨年は創立 20 周年記念の年ということで記念行事をはじめ全ての計画が皆様のご協力の御蔭で滞りなく順調に進められました。そしてこの 1 年は藤沢白門会がこれから 25 年、30 年更には 50 年と継続して発展していく為の「次のステップに向けて」の準備期間というわけでありましたが、世界はイギリスの EU 離脱、アメリカのトランプ新大統領、相変わらず起きたテロ等々世界の流れが内向きとなってきており、潮目が変わった感じでした。これから世界がどう動いていくのか気になるところですし、国内においても熊本地震、台風による東北、北海道の被害等大きな災害が起きました。そういう中でリオデジャネイロオリンピックでの日本選手団の大活躍は素晴らしいものがありました。その中でも陸上男子 400 メートルリレーはまさに快挙でした。100 メートルオール 10 秒台の日本がオール 9 秒台のアメリカに勝ち銀メダルを獲得したことは本当に素晴らしかったことでした。

その感動の余韻に浸っている時にとんでもないことがおきてしまいました。箱根駅伝の予選会において、87 回連続出場が途切れてしまったことです。藤沢白門会をはじめ神奈川県内の殆どの白門会は箱根駅伝の応援が最大の行事です。本当に残念で、悔しい思いをした正月でした。来年は勿論予選会を突破して、優勝争いが出来るチームになってほしいと思っております。

さて、藤沢白門会の 1 年間は、地引網が天候不順で中止になった以外は、担当幹事の努力と会員の協力で予定された計画は順調に進んでおります。その中で、11 月、姉妹支部提携をしている長野県中信支部の創立 65 周年記念行事に親睦交流の一環として参加させていただきました。大変素晴らし

かったことは、社会貢献として近隣の市町村に 8 台の車椅子の寄贈、病院にはクリスマスツリーを贈呈する等であり、さらには「大演奏会」です。これは中央大学吹奏楽団（100 人）の他に県立蟻ヶ崎高校（80 人）、市立鎌田中学校（70 人）によるもので、ラストは選ばれた 200 人による大演奏が 1600 人を超える聴衆を魅了しました。本当に感激をした次第でした。

さて、定期総会において私は会長に選任され 5 期目がスタートしたわけであります。その時当面の課題として「次の世代へのスムーズなバトンタッチ」を図ることを掲げました。総会時に幹部が相当長期間にわたっている方が多いこともあり、5 人の中堅、若手に役員になってもらい会の運営に参加をしてもらいました。当会は今後とも継続して発展していかなければなりません。その為には中堅、若手、女性方にもっともっと積極的に会に参加をしていただき、運営にも携わって欲しいと考えておりますので、宜しくご協力をお願いします。

次に、会員数 300 人の目標を掲げました。総会時には 281 人でしたので勧誘の案内を出したり手は打ってきました。現在（1 月末）までに 10 人の方が入会されましたが、名簿を整理したこともありまして、発刊される頃は 274 人に減少しております。これからを担っていく人が減ってしまってはいけないので、藤沢市在住、在勤の他に近隣の市町在住、在勤でも宜しいので、皆様に一人でも誘っていただければと考えておりますので、ご協力をお願いします。私としましても、藤沢白門会に入会するメリット、入って楽しいことがあるのか、魅力は何なのか等についてもっと深く検討しなければと思っております。

地元への貢献として社会福祉委員会が中心となって平成 12 年度から皆様のご寄付による資金で「車椅子」を毎年度藤沢市社会福祉協議会に寄贈しており、本年 1 月 1 台を寄贈し、合計で 27 台となりました。この事業も今後とも積極的に進めてまいります。

藤沢白門会にはまだ課題はありますが、今後益々充実させ、発展・飛躍していかなければなりません。その為に私も全力で取り組んでまいる所存ですので、皆様におかれましても、ご理解をいただき、ご支援ご協力の程お願いいたします。

特報：リオ五輪＊陸上 400m リレー
飯塚翔太選手（学員：平 26 法）　銀メダル獲得！

〈世界に誇る歴史的快挙〉

2016 年 8 月 5 日（金）から 17 日間にわたって開催されたリオデジャネイロ・オリンピックの最終日も近くなった同 19 日（金）、学員の飯塚翔太選手（平 26 法、ミズノ）が第 2 走者として出場した陸上競技・男子 400m リレーにおいて、37 秒 60 のアジア新記録・日本新記録で銀メダルを獲得した。

未曾有の快挙に、世界中が驚いた。今回の銀メダル獲得は、日本はもちろん、世界の陸上界の歴史を変えた。前回のロンドン五輪における日本の陸上競技でのメダル獲得は、男子ハンマー投げの銅のみ。トラック種目では、1928 年（昭和 3 年）のアムステルダム五輪において女子 800m で獲得した銅メダルと、80 年後の 2008 年（平成 20 年）の北京五輪において今回と同じ男子 400m リレーで獲得した銅メダルがある。

今回のレースで、人類史上最速のスプリンターであるジャマイカのウサイン・ボルト選手をはじめ、世界から日本が絶賛されているのは、チームワークの良さと、巧みなバトンの受け渡しである。飯塚選手は今回のチームで最年長の 25 歳。持ち前の明るさでメンバーを鼓舞し、快挙につなげた。

レース直前に披露し話題となった、刀を抜き切るような“サムライポーズ”も、飯塚選手の考案によるもの。これも、前号本誌インタビューで「自身の記録や結果はもちろん、お客さんにも楽しんでもらいたい」と語っていた飯塚選手ならではのパフォーマンスだ。

本学では、9 月 12 日（月）、多摩キャンパスで飯塚選手の表敬訪問を行い、深沢武久理事長、酒井正三郎総長・学長をはじめ、多くの教職員から熱い歓迎を受けながら母校に‘凱旋’した。熱狂のうちに五輪は終わったが、4 年後にはいよいよ東京五輪。これからも引き續き、学員の皆様の温かい声援をお願いしたい。

（「中央大学学員時報」第 494 号より抜粋）

会員随想

学生時代の思い出

平成 27 年総合政策卒　白石桃子

二〇一一年四月、私は中央大学・総合政策学部に入学しました。この年は三月に起こった東日本大震災の影響で、全体入学式が無い異例な年でもありました。

例年ならばスーツで入学式に参加する新入生も、この年ばかりは私服での登校です。

しかし、総合政策学部は単独で入学式を開催したため、私は着慣れないスーツで初登校することとなりました。私服の学生が行き交うなか黒いスーツでキャンパスを彷徨うのは、とても気まずかったのを覚えています。

入学当初こそ不安な気持ちで始まりましたが、その後の四年間は友人にも恵まれ、非常に楽しく充実した時間を過ごす事が出来ました。今回は、その学生時代を振り返ってみたいと思います。

私の在籍していた総合政策学部の学部棟はモノレールの駅から一番遠く、一限から講義が入っている日は息を切らせながら教室に駆け込んでいました。あまり勉強熱心とは言えない学生でしたが、大学の友人と会うことは好きで、ほぼ皆勤賞だったと記憶しています。

講義後はサークル棟でよく時間を潰していました。私は考古学研究サークルに所属していました。非常にのんびりと居心地の良い雰囲気だったので、ものぐさな私でも引退まで活動することが出来たのだと思います。考古学研究サークルは夏に発掘合宿があるくらいで、それ以外は暇を持て余し気味でした。白門祭でも展示発表をしているのですが、教室も端に追いやられ、毎年閑古鳥が鳴いているような状況です。もし、会員の皆様の中で白門祭に行く機会のある方が居れば、考古学研究サークルの展示にも足を運んでみてください。学生たちが喜んで迎えてくれると思います。

文化祭と言えば、一度祖母を招待したことがあります。キャンパスを見学していた祖母が一番喜んでいたのが、学食です。中央大学の学食は美味しいと聞いていたらしく、実際に食べることが出来てとても嬉しそうでした。実は、私自身はお弁当派だったため、在学中あまり学食を利用する機会がありませんでした。もっと色々なメニューを食べておけばよかったというのが、卒業後唯一の心残りです。

学生時代も充実していましたが、卒業してからも大学との繋がりはより深まっています。

つい先日もサークルの友人と箱根に遊びに行ってきました。その時話題に上がったのが箱根駅伝です。今年は中央大学出場ならずというニュースを聞き、友人も「なんだか寂しいね」と残念がっていました。卒業しても定期的に会える友人を得ることができたこと、そしてその友人と母校のことで盛り上がれることが、とても嬉しいです。

そして、もう一つが、この藤沢白門会に参加させて頂けたことです。藤沢白門会にお声掛け頂いたことで、卒業後も OB の皆様と交流させて頂き、大学とのご縁が切れずにいることがとても嬉しいです。若輩者ですが、今後も皆様と楽しい思い出を作っていけたらと思っています。

片山哲先生が愛読した「小公子」翻訳者
「若松賤子（しずこ）」日本最初の外国文学女性翻訳者

昭和 29 年経済卒　髙島良太郎

「片瀬海岸は紀南的風光であり、気候もよく似ている（片山先生は紀南田辺出身）。私はここに五十年近く住んでいるが、将来、この地方一帯はますます発展するものとみている」と回顧録に書き残しているほど湘南を愛された。そして藤沢市の名誉市民第一号となられた。その回想録に「小公子」のことが述べられておる。

『母はその「小公子」をとじ綴り、人々にも読ませ、小学校上級生になった私たちを集め読んで聞かせ、中学に入ってからは、子供たちに自分で読ませるようにした』『回想と展望』「母の愛読する『小公子』物語」より。

若松賤子

この「小公子」を翻訳、女学雑誌に連載した若松賤子、本名巖本嘉志子は 1864 年（元治元年）、会津藩の藩士で隠密の松川勝次郎の長女として生まれた。干支にちなんで甲子（かし）と名付けられた。

1870 年（明治 3 年）横浜在住の生糸交易商大川家の養女となり、大川嘉志子と称した。経済的に裕福な大川家では、ミス・キダ―女史の学校（後のフェリス女学校）で学ばせてもらった。嘉志子はここの寄宿生となり 1882 年（明治 15 年）フェリス女学院最初の卒業生となり、卒業後母校の教師になった。

そのころ、巖本善治が編集長をしていた「女学雑誌」に投稿していたのを縁に巖本善治と結婚した。結婚を機にフェリスを退職、仕事の場を「女学雑誌」に移した。明治 23 年嘉志子は「若松賤子」のペンネームで『小公子』の翻訳を連載、評判になった。平塚らいてうも女学生の頃『小公子』を読んだという。原題は『リトル・ロード・フォントルロイ Little Lord Fauntleroy』若松賤子以降、60 人以上の翻訳がでているそうだが、題名はすべて『小公子』。

巖本嘉志子は『女学雑誌』に「子供の権利と保護」「家庭教育の重視」など連載している。片山哲先生は「この『小公子』は 1886 年（明治 19 年）にアメリカで出版され、若松賤子女史の訳は、明治 23 年から『女学雑誌』に掲載されたもので、いち早く世界的な新刊書に眼をつけられた女史の慧眼にも驚く。そして原作者、訳者の両夫人ともに共通していることは、子供に対する愛情、否、もっと大きな人間愛であり、それが名筆で共に美しく表現されていることだ」と言っておられる。若松賤子は単に女流文学者だけではなく、子女の教育や女性の自立、社会的向上を唱えた教育者であり、文学はその活動の方法のひとつであった。

嘉志子は以前より結核を患っていたが 1896 年（明治 29 年）、三人の子供を残して死亡。長男荘民（まさひと）は早稲田大学卒、ハーバード大学に留学、マーグリート・マグルーダートと結婚した。マーグリートはジョンズ・ホプキンズ大学卒で、ハーバード大学でフランス語を教えていた。荘民は日本に帰国後、アメリカ大使館や立教大学に勤務、マーグリートは東京女子大学の英文学講師、また

東京成徳大学教授など務めた。荘民とマーグリートの一人娘メリー・エステル、日本名巖本真理（1926 ～ 1979）はヴァイオリニストとして有名。

戦後の民主化から七十年、いまだに男女平等、女性の地位向上が叫ばれているが、ましてや近代国家に仲間入りしたばかりの明治日本、それは男性の社会、そんな中で「子供の権利」や「女性の自立」を唱えた若松賤子こと、巖本嘉志子はその生涯は短かったが偉大な女性であった。

参照資料・「回顧と展望」片山哲著、「巖本嘉志子の思想形成」武田京子著、「若松賤子　黎明期を駆け抜けた女性」尾崎るみ著ほか。

片山哲先生・藤沢市民会館前銅像

日々時々詠む

昭和 35 年法卒　服部　治

□□□　やわらかな日差し、海の方から静かに吹いている風、メジロのチチ、チチの鳴き声も聞こえてくるとき、ちょっと来し方を振り返ることがある、日々の営みでの節目ということかもしれない。

そんな思いの中で、これまで詠んだ俳句を小著『俳風画風・百句』に刊行する機会を昨年に得た。まったくの我流である。百句のなかには、旅、自然、風景、ふるさとなど織り込んでいる。それぞれが懐かしき、楽しき思い出となって浮上してくる。

ここでは、藤沢白門会の旅行サークルで行った御嶽の旅、古き渤海国の史跡の情景、冬の金沢兼六園を小著から３句取り上げたことに了承を乞う次第である。

画は、夢中巌（佐々木国男氏）による。　□□□

たらの芽の揚げ立て山野連れて来る

木曾の春は遅い。四月というものの寒気が残っており、御嶽山には残雪が拡がっていた。前方に聳える御嶽を見ながら山裾を少し歩いた。それが自分にとって精いっぱいの歩行力。御嶽の寒気には山歩きを楽しむ余裕などほとんどなかった。寒さにやや震えながら下っていくと、広々とした高原に位置する開田村の情景を目にすることができた。

その折、大学のＯＢ会のメンバーとともに、ご当地のうまい蕎麦をいただく。広いテーブルには、蕎麦とビールと〈揚げ立てのたらの芽〉天麩羅が運ばれてきた。早速、たらの芽を口にしたとき〔これはいける〕。まるで、さわやかな早春の山野を連想させ、一緒に味わうような雰囲気となった。たらの芽の味覚は、ビールの量を増やしていったのはごく自然の態。ほろ酔い気分のなかで、ふと学生時代の夏休みに木曽福島で参加した正調・木曾節の特訓を思い起こしていた。

♪ヨイヨイヨイのヨイヨイヨイ
あの娘ナァ仲乗りさん　あの娘十八　ナンジャラホイ
隣の村へお嫁入り　ヨイヨイヨイヨイのヨイヨイヨイ♪

懐かしきかな、木曾節だ。若い日の木曾旅行をちょっと気分に馳せて、たらの芽の味を楽しみながら、ビールの泡の中に 40 年前の歳月を織り込んだ木曾御嶽となった。

笹原を来る風音や古城夏

細い山道は、まさしく山上を目指す岩の道でもあった。岩と岩との隙間こそ唯一の通るべき道になっている。その山上に史跡がある。七世紀末から九世紀にかけて中国東北地域に勢力を誇示した渤海国の山城である。眼下に見える鏡泊湖は輸送や戦略上の要路として機能していた、と伝えられている。

夏の日の山城行きは、山登りが苦手だけに、大丈夫かなと登る前から心配したところであったが、それらを吹き飛ばして切羽詰まっての決意表明でもあった。

岩に手をかけ岩をよじ登りながらの難行の後、やっと辿りついたときの安堵感は、確かにその時点で達成感にも通じたひとときであった。岩と笹原で覆われた山城の史跡には、笹原を揺らして音を立てる風に勢いがあった。笹原のざわめきのなかで、かつて千年を越える前時代の山城で、全山に響いた音はどんなものであったのだろうか。

響き渡る音は、渤海国の警備警鐘として、あるいは仲間への情報、戦いを挑むための合図であったかもしれない。笹の林となった山上の一角は、激しい戦場の址を偲ぶささやかな舞台の趣。いま涼感を乗せた風は、鏡泊湖から吹き上げてきたようだ。湖面は陽を受けて穏やかな表情。山城跡を囲む笹群は大きな広がりとなって、茂みをつくっていた。

風音がしばらく消えたとき、静かな夏の午後が、そこに在った。

雪吊りの雪なき景を支えつつ

松の大木が大きく枝を伸ばして立っている。その堂々たる立ち姿は、一幅の名画となる。周囲の景色を圧倒して空へ向かう樹木も、冬を迎える百万石・金沢では、季節の装いを早めに着手して待機する。

兼六園の冬の衣装を表徴するのは、雪吊り。季節を飾る雪吊りへの期待度は一様に高い。なんといっても、降る雪に松の威容を保ち守護しようとする雪吊りの役割は大きいのだ。

兼六園の冬支度は、雪の降る前に準備を進め、その美しさを顕示しなければならないが、それには条件が伴う。観光客にとって、有利な条件とはどういう状態を指すのだろうか。兼六園の雪吊りを見たいという気持ちは、冬が近づくにつれて高まってくる。

条件のひとつの場面は、雪吊りの縄目にも少し雪があって、小雪がまだ降っている状態。もうひとつは、空が晴れて雪は止み、一面の雪景色のなかで雪吊りと樹木が安定して見える状態。実際はどうだろうか。こうした情景に接する機会は、あまり高い確率ではないようだ。

仮に降雪のなかで雪吊りを見ることができないとしても、確かな美的価値は変わりないわけで、そこはじっくり楽しみたいもの。今年の冬の兼六園は、晴れた日のなかで松の大木にかかる雪吊りが美しい線をつくり、少し雪を乗せている情景となるかもしれない。

秋日雑感

昭和 43 年商卒　鉢蠟　博

11 月 4 日今日は朝から快晴、庭に出てみると、コスモスや日日草が優しい花をつけて風に揺らいでいた。すると赤く彩られたハナミズキの一枚の葉がひらひらと落ちてきた。

この瞬間もう秋だなと感じる。

朝食はご飯であった。いつもは手作りパンなのだが妻は昨日仕込みを忘れたとか仕方がない。

今日は昼前に保険の女性が二人来る予定。夕方にはダンスのレッスンにいかなくては…

ダンスは 42 才から始めたのでかれこれ 30 年近く付き合っている。よく飽きないものである。

そうそうダンスのレッスンで思い出したのだが昨日は昼に平塚まで行って歌のレッスンをしてきた。

ダンスと同様　歌との付き合いも長い。

近々歌の仲間と地元のホールでコンサートの予定がある。

歌にダンスとこれだけでも結構忙しい。

以前はゴルフとテニスをたまにではあるがプレイしていたが腰を手術してから止めた。

その代わり里山を守る会という NPO 法人の会に入れてもらい遊んでいる。慶応大学の北側の山を伐採や草取りをしたりまた山野草園もあるのでそれの雑用などである。

そういえば最近では白門会活動も私の生活の一部になっている。

会員諸氏のかたがたに比べて活動歴のない私だが色々な行事には極力参加しようと思っている。

それにつけても今回の箱根駅伝は残念な結果でした。

今年の予選会に行ってきたが中央大学にくらべて他大学の元気さが目につき残念であった。

結果を受け止めて来年に期待したい。

最後に片岡会長はじめ役員の方々の日頃の活動に感謝もうしあげます。

藤沢白門会の行事活動

第 22 回定期総会開催

― 25 周年を見据えて新たな発展へ―

平成 28 年 4 月 24 日（日）午後 17 時 20 分より、中央大学藤沢白門会第 22 回定期総会が、藤沢市民会館「第 2 展示集会ホール」において、第一部総会、第二部懇親会の通算で 68 名の参加を得て開催された。

第一部の定期総会の冒頭では、この 1 年間に他界された 4 名の会員の方々を追悼し、黙祷が捧げられた。

次に校歌を全員で斉唱し、その後片岡久興会長の挨拶の中で、今年度は、例年、第一部として行われている医療講演会がスケジュールの都合で実施できなかったこと、昨年度は、すべて 20 周年という冠のついた行事を行ったが、会員みなさんの協力で成功することができたことに感謝したいということなどが述べられた。

粛々と進行される定期総会

その後議事に移り、事務局から平成 27 年度の活動状況報告、並びに収支決算報告と小崎誠士監事による監査報告があり、それぞれ承認された。続いて平成 28 年度行事計画案、収支予算案、役員改選案が、それぞれ審議の上、すべてが承認された。

新入会員・初参加者の紹介にて

第二部の懇親会では片岡久興会長の挨拶で始まり、会長として 5 期目になったこと、今年を25周年へのスタートとしていきたい、若い会員に多く入ってもらう魅力ある白門会にしていきたいなどということが述べられた。続いて来賓の挨拶では林勘市中央大学常任理事が、駅伝チームが新監督を迎えて新体制になってスタートしたことや、今年度の志願者数が回復してきていることなどを述べられた。同じく来賓の大木田守中央大学学員会副会長が、今年は中央大学の中長期計画の 1 年目になるので学員会としても応援していきたいことや中国の上海に留学生支部ができたことなどを述べられた。

続いて藤沢白門会讃歌斉唱の後、石原昭憲相談役の発声で乾杯、懇親の宴が開会された。和気藹々とした歓談の中、新入会員や初参加者の紹介が行われた。

最後に小山副会長のリードで、応援歌を全員で斉唱し、エールで締めた後、散会となった。なおエールの後継者として長田さん、中嶋さん高井さんが指名されたことを付け加えておく。

（親睦行事委員会　吉田弘明）

‖　新たな出発を寿ぐ～平成 29 年新春のつどい　‖

平成 29 年 1 月 28 日（土）午後 2 時より、藤沢市民会館第 2 展示ホールにおいて、中央大学藤沢白門会の 20 周年記念式典後の新たな出発となる平成 29 年新春のつどいが 90 人余の参加のもと開催されました。

総合司会を務める川俣誠事務局長の開会の言葉に続き、藤沢白門会讃歌斉唱で幕を開けました。

最初に、来賓の鈴木恒夫藤沢市長のご公務の関係で、車椅子贈呈が行われました。贈呈に先立ち、片岡久興会長より、この藤沢白門会による車椅子の寄付活動は平成 13 年 2 月の会発足 5 周年記念式典から始まり、これまで 16 年間絶えることなく毎年 1 台以上の寄付を続け、今回で 27 台目となることが説明されました。目録贈呈の後、鈴木市長よりご挨拶をいただきました。車椅子の寄付についての謝意に続き、藤沢市による道路等のバリアフリー化や藤沢駅周辺の道路整備等、社会福祉に関連した事業を進めている状況のご説明がありました。また市民マラソンへの SUC による協力への謝意と、来る東京オリンピック・パラリンピック時には来場される車椅子等の使用者のための各種整備をしていきたいとの方針を述べられ、大きな拍手に送られながら次の公務へ向かわれました。

次に片岡会長挨拶として来賓への御礼のあと、今年度は夏のリオオリンピックで飯塚翔太選手をメンバーとした陸上男子 400m リレーチームによる、アメリカを破っての銀メダル獲得という快挙に感激したのもつかの間、秋の箱根駅伝予選会での落胆と悲喜こもごもだった 1 年を振り返りつつ、

藤沢白門会の活動について、地引き網大会が天候により中止されたほかは、計画通り進んでいることが述べられました。また他支部との交流のうち、姉妹関係である中信支部の 65 周年行事において開催された演奏会が、母校中央大学の吹奏楽部の演奏に続き、地元の高校、中学校の吹奏楽部の演奏と続く構成が多数の地元の市民の来場という効果をあげていたことをあげ、地元への貢献と交流の大切さを実感したことが述べられました。最後に藤沢白門会会長として 5 期目を迎えており、世代交代を円滑に進めていきたいこと、会員数が若干の減少となってしまっていることから、会の魅力をいっそう増すようアイデアを出していきたいとの決意が述べられました。

続いて来賓である、神﨑茂治中央大学常任理事、久野修慈中央大学学員会会長よりご挨拶をいただきました。

神﨑茂治常任理事からは、藤沢白門会の活発な活動に対する評価のお言葉の後、箱根駅伝の結果は大変残念で、現在大学では善後策として、①スカウト強化や体勢作りによる、有力選手の獲得、②海外合宿などによる選手の強化、③トレーニング機器やトラック整備による施設の充実、科学的訓練と体調管理を行っていくという方針で進めていることが説明されました。最後に 2025 計画を 4 つの委員会で検討していること、それに伴う募金への協力の呼びかけでご挨拶を締めくくられました。

久野修慈学員会会長からは、まず藤沢白門会の活動は模範であるとお褒めの言葉をいただき、また片岡会長と同様、中信支部の演奏会のアットホームさに好感を持ったこと、こういった活動により、中央大学の心を市民と通わせ、市民の理解を得ていくことが大事だという思いが述べられました。箱根駅伝については、ご自身の大洋ホエールズ球団社長のご経験からスカウトの大切さを、当時広島から招いたスカウトの活動を例に挙げながら、大学の努力が必要だと力説されました。そして募金等の協力を求めるのなら大学はよりいっそう努力するべきご挨拶を結ばれました。

大いに盛り上がった懇親会

乾杯の音頭は元法務大臣である千葉景子顧問にとっていただきました。千葉顧問からは、今年は箱根駅伝で年を開けることができなかったので、ようやく年が明けましたとご挨拶をいただき、会の発展を祈念し、乾杯しました。

懇談中、来賓の横浜白門会、川崎白門会、平塚白門会、茅ヶ崎白門会、逗葉白門会、小田原白門会の皆様、SUC 親睦会の慶応大学藤沢三田会、早稲田大学藤沢稲門会の皆様が紹介されました。また中央大学理事長、総長・学長からの祝電が読み上げられました。

懇談に花を添えたのは、ひらつかとしおバンドの皆さん。湘南らしく明るい品のあるジャズ演奏と歌の効果で、参加者のお酒も会話も進みました。

楽しい時間もあと少しというところで、杉山洋若手委員長の司会によるお楽しみ抽選会。今年も会員からの豪華な景品がそろい、盛り上がるひとときとなりました。

最後に校歌・応援歌を斉唱し、小山勝男副会長が恒例のエールに加え閉会挨拶を行い、参加された皆様に感謝して閉会しました。出口では恒例の車椅子募金が行われ、多くのご芳志をいただきました。

本年もこのように新春のつどいを盛大に開催できましたこと、改めて皆様に厚く御礼申し上げます。

（親睦委員会　井出　豊）

ひらつかとしおバンドによるジャズ演奏

恒例の福引抽選：会長賞は誰の手に

‖　中大箱根駅伝、連続出場 87 で止まる　‖

去る 10 月 15 日（土）に立川昭和記念公園で 1 月 2、3 日の本選に出られる上位 10 校を決める第 93 回箱根駅伝予選会が国立、私立を含めて 50 校が参加して行われ、トップの大東大など上位 10 校が出場権を得ました。

最多回数出場を誇るわが母校、中大は 11 位で予選落ちして、連続記録が 87 で止まりました。出場 86 回の日大は中大と 44 秒差の 10 位に滑り込み、伝統校で明暗が分かれました。

特に日大のエース・ワンブィが個人 1 位の快走、石川も日本人 2 位となる 7 位の走りで主将の意地を見せました。

中大のエース町沢は 10 キロ過ぎから遅れ始め、個人 15 位で大きな貯金をつくれなかった。主力以外はチーム一団となり、設定ペースでレースを進める「集団走」が予選会の基本戦術だが、わが母校は 10 キロ手前で瓦解し、パラパラとゴールした状況でした。

結果は 10 位の日大と 44 秒差で箱根駅伝史上連続出場が 87 で止まり、大正 14 年から出続けた名門が 88 大会ぶりの歴史的敗戦を喫しました。

ゴールの会場では、北は北海道、南は九州まで各支部のノボリと OB 及び父兄方々が沢山応援に見え、他校を圧倒する数でした。

ここ 4 年シード権は取れず予選会まわりで、90 年の予選会での記録は 13 位でしたが、記念大会なので辛うじて、本大会に出場する事が出来ました。

この時点で監督を変えていれば、こういう結果にならなかったと思います。

監督は練習も選手の自主性に任せ、3 年生、4 年生は寮から大学までバイク通学可とし、1 年生が新しく大学に入学してびっくりしたのは、高校の時より練習量が少なく、練習も一貫性がなくこれでは箱根駅伝も出場出来ないと思ったそうです。

4 月より駅伝再建の為、中大 OB で本田技研の藤原正和選手を監督と迎え入れたが、6 月の全日本大学駅伝予選会で 17 位と惨敗し、このままでは箱根予選会でも負けると思い、危機感を抱いた監督は 7 月より、新主将に舟津彰馬、副主将には同じく 1 年生の田母神一喜を抜擢し、大改革をしましたが、残念ながら時間が短く、11 位に終わってしまいました。

88 回連続出場をかけての応援風景
（写真提供：中央大学広報室）

新監督はこれから、いばらの道だと思いますが 1 年後には予選会では上位 5 位以内、本選でも 7 位以内に入るとの信念を持って指導して行く事を期待しております。

（箱根駅伝を応援する会　城崎芳彦）

第 20 回 SUC 親睦交流会

会場変更で簡素な交流会となる

平成 28 年 10 月 2 日（日）湘南クリスタルホテルにおいて、第 20 回 SUC（湘南ユニバーシティクラブ）親睦交流会が立教大学・湘南立教会を幹事校として開催され、16 大学同窓会の主要メンバーが参会した。会場が昨年の藤沢市民会館から変更となったため、収容人員に差があり、各校の旗を掲げることができず、またアトラクションもなく、全体として簡素な交流会となった。我が藤沢白門会からは、片岡会長をはじめ 8 名が参加し、総勢 110 名余の参加であった。

片岡会長・杉山若手委員長を
はじめ、参加会員の紹介

第一部は、幹事校立教大学の同窓で、立教セカンドステージ大学講師の坪野谷雅之先生による記念講演会があった。「暮らしに役立つ経済と金融」と題した講演は、毎日の新聞記事を記事毎にまとめて読み解くことにより、経済の流れや世界の動きがわかるというもので、新聞記事という日常的な情報源から経済の動きがわかるというものだった。ただ、経済の専門家でもない我々市民は一獲千金を夢見ずに堅実な資産運用等に心がけた方が良いという内容でもあった。

鈴木恒夫市長による挨拶

第二部の親睦交流会は、幹事校である湘南立教会の清水誠会長の挨拶、来賓の鈴木恒夫藤沢市長の挨拶と続き、参加加盟大学の紹介の後、神奈川大学藤沢宮陵会の秋田琢次会長の乾杯で宴の幕が開いた。今年も会場の都合で各校の旗が飾れず、アトラクションもできなかったため、より簡素な交流会となったが、あちらこちらのテーブルで各大学からの会員相互の交流を図る姿が見られ、SUC の伝統を感じる会となった。質素ではあるが、その分親睦が深められた会であったかなとは感じた次第。最後に、来年度幹事校である早稲田大学藤沢稲門会の足立勲一郎会長から開催への協力と再会を期す挨拶があり、和気あいあいのうちに散会した。

（副会長　澤田英樹）

第 16 回　神奈川県合同白門会

箱根駅伝への熱き思い　是非復活を !!

第 16 回を迎えた神奈川県合同白門会が、平成 28 年 11 月 12 日（土）小田原鈴廣「鈴の音ホール」に於いて開催されました。小田原白門会が当番幹事で神奈川県内の八地域支部・白門会等で約 85 名の方が参加され、学員会本部から松原副会長が藤沢白門会からは、12 名が参加しました。

第一部「**最近の発掘調査成果からみた史跡小田原城址**」
講師　小田原市文化部文化財課　課長　大島　慎一　氏

講演に熱心に聞き入る参加者達

小田原城の歴史

前身は、室町時代に西相模一帯を支配していた大森氏が 15 世紀中頃築いた山城と考えられています。15 世紀に北条早雲が小田原に進出、以降約 100 年関東での勢力を拡大しました。しかし豊臣秀吉の小田原攻めにより北条氏は滅亡しました。

江戸時代小田原城は東海道で箱根の関所を控えた関東地方の防御の要となっていましたが明治時代になって廃城となり、昭和 35 年に天守閣が復興されました。

以降　大島氏の講演概要

今年は小田原城の当たり年です。1 月にブラタモリの放映で市街地の総構の痕跡をたどり 5 月は天守閣リニューアルオープン又バラエティ番組でも天守閣や大堀切などが多数取り上げられました。

小田原城は、1590 年の小田原合戦には、総構が完成し全周 9km 城下町をも取り囲むおそらく全国一の規模の巨城になった。御用米曲輪（ごようまいくるわ）での歴史的な発見

小田原市 3 つの国指定史跡

小田原城跡は、戦国期全国最大規模を誇る北条氏の本城（中世城郭）と江戸時代という新しい時代にふさわしい姿に改修された姿

石垣山一夜城は、戦国の世の終わりを告げた、東国初の総石垣の城（近世城郭）江戸城石垣石丁場跡は、江戸城の石垣石を切り出した遺跡

懇親会の模様

第二部　**懇親会**

懇親会は、当番幹事の小田原白門会中村会長の歓迎の挨拶で始まりました。続いて来賓としてご出席頂いた、松原学員会副会長から挨拶があり、箱根駅伝を強くする会の朝倉事務局長からも挨拶がありました。

前回当番幹事の逗葉白門会荒井会長の乾杯の音頭で歓談が始まり、川崎白門会から小田原白門会まで箱根駅伝に対する熱き思いを語り合いました。

あちらこちらで和やかな歓談の輪が出来、楽しい時間があっという間に過ぎました。

次回開催の相模原白門会佐々木会長の挨拶の後、応援歌校歌を全員で斉唱し、小田原白門会椎野副会長の閉会の辞で盛会裏にお開きとなりました。

（副会長　吉原和義）

参加者全員で「惜別の歌」を斉唱

第 25 回　ホームカミングデー

中央を超える、中央へ　はばたけ！

平成 28 年 10 月 23 日（日）秋晴れとは異なる天気でしたが、第 25 回ホームカミングデーが、中央大学多摩キャンパスで開催されました。

昨年を上回る 6,400 人（昨年 4,400 人）が訪れ、藤沢白門会から 12 名が参加しました。

10 時よりクレセントホールにて行われた開会式では、東日本大震災の発生により、中止になった卒業式が「2010 年度の卒業記念式典～ 5 年後の再会～」として行われました。又親子 3 代卒業生表彰（今年は 10 組）や「中央の絆」として各白門会が各々の幟を持って集合しました。

クレセントホールへ各白門会が一堂に会する

イベントの一例

新海誠スペシャルトーク＆作品上映会

君の名は。映画が大ヒット又同名の小説もベストセラーになった新海誠アニメーション作家・映画監督が母校中央大学で川田十夢氏とトークショー等が行われました。多くの方がクレセントホールに集いました。

蓮池薫氏と片岡会長の名刺交換

蓮池薫氏に聞く～インタビュアー：島田敏男 NHK 解説副委員長～

藤沢白門会でも講演して頂いた、蓮池薫氏と NHK 日曜討論でおなじみの島田敏男氏との対談が「過去、現在、未来」をテーマに行われました。

藤原駅伝監督に聞く

大勢の方が、8 号館の教室に詰めかけ、予選会について、1 年生キャプテンについて、来季に向けてなど藤原監督から話がありました。

寄席の世界を楽しむ

笑いからはじめよう白門ファミリーの輪

今年も、中央大学を卒業した落語家柳家小団治師匠・桂やまと師匠・田辺凌鶴師匠・春風亭朝也さん・林家つる子さんの落語が行われました。

尚、春風亭朝也さんと林家つる子さんは、お楽しみ抽選会の司会もして頂きました。

親子が楽しめる企画等が多彩に開催

親子ポンポン教室・似顔絵コーナー・書道コーナー・子供遊具コーナー

錦鯉の放流式

多摩キャンパスの中央の池に 80（10 月 23 日現在）の錦鯉が放流されています。この錦鯉は、中越支部の方から寄贈されました。多摩キャンパスのシンボルになると思います。多摩キャンパスに行かれたら是非見学して下さい。

メイン会場では、模擬店や物産展も多く出展して参加者は、大いに飲んだり食べたりしました。

初めて多摩キャンパスを訪れた方は、学生時代通った駿河台と比べて広大なキャンパスに驚いていました。

参加者の有志は、藤沢でご苦労さん会を行い秋の楽しい一日を過しました。

多摩キャンパスに行った事のない方は、是非来年参加してみてください。

久野学員会会長、深澤理事長、酒井総長・学長も
参加しての一斉放流
（写真提供：中央大学広報室）

（副会長　吉原和義）

中越支部から届いた見事な錦鯉たち

第九回若手懇親会ボウリング大会＆パーティー開催

昭和 50 年以降卒業の会員で構成する若手委員会では、恒例の「第九回若手会懇親ボウリング大会＆パーティー」を平成 28 年 12 月 10 日（土）に 14 名が参加し、江ノ島ボウリングセンターにて開催されました。

今回ボウリング大会の参加は、女性 2 名、新入会員 2 名を含む男性 12 名の計 14 名の参加でしたが、大変にぎやかな大会となりました。

勢い余ってファールラインを越えてしまう会員、ストライクに拳を突き上げる会員、スピリットを倒しスペアを決める会員など、ハイタッチ、歓声と爆笑に包まれ、和気藹々とゲームが進行し、3 ゲームを存分に楽しみました。ゲーム終了後、懇親パーティーは 19 名の参加で表彰式などを行いました。

「お疲れ様、乾杯！」

杉山若手委員長の挨拶、片岡久興会長の音頭で乾杯の後、いよいよ表彰式が始まりました。ルールは、例年同様 3 ゲームのうちスコアの良い 2 ゲームを選択し、その合計得点（女性はハンディキャップ一ゲーム 30 ポイント加算）で勝敗を争いました。優勝候補の中島智慧さん、本間徳也さんが不参加とあって混戦が予想されましたが、結果、優勝は 340 点で（第一回優勝者）の杉山洋さんが二回目の優勝、準優勝は 309 点で初参加の鉢蝋美江さん（鉢蝋先輩の奥様）、三位は 295 点で大先輩の中谷哲夫さんでした。新入会員の高井昇さんが 294 点で四位、同じく新入会員の崔洋誠さんが 293 点で五位と健闘。ハイスコアは、杉山さんが 170 点で見事、賞品をゲット！

第五回から導入している団体戦は、今回は行いませんでした。

ゲーム終了後、参加者全員で

引き続き、全員の結果発表および全員の賞品授与と続き、特にご参加いただきました片岡会長、会長ご夫人を囲み、懇親会から参加してくださいました新入会員の難波大貴さん、久々に参加の新婚ほやほや・石橋由人さんがおられたこともあり、各会員の自己紹介等をしながら懇親を深めました。各会員の食欲旺盛ぶりは満点の料理を次々と平らげ、飲み放題のアルコールも次々と進み、楽しい談笑の中、お開きの時間を迎えました。来年の第十回若手懇親会ボウリング大会＆パーティーを楽しみに、各自賞品を片手に、ほろ酔い加減で会場を後にしました。

次回も、若手会員の親睦を一層広げるためのイベントとして開催致します、多数の若手会員に気軽に参加いただき、盛り上がる会にしていきます。

若手会員、こころよりお待ちしております。

（若手委員長　杉山　洋）

長野県中信支部創立 65 周年記念式典出席について

11 月 27 日（日）信州松本訪問の為、小田急藤沢駅に片岡会長夫妻を始め、合計 10 名（遠藤夫妻は車）早朝出発し、町田経由八王子からスーパーあずさ 5 号に乗り、約 2 時間で松本駅に到着し、タクシーで式典の会場であるキッセイ文化センター（信州大学近く）に 11 時過ぎに到着し、既に中央大学長野県中信支部創立 65 周年式典は始まっており、各自招待席に導かれ、最初に中信支部長小林治雄様のご挨拶と昭和 27 年に創立されその後の活動報告等があり、藤沢白門会では例年、市に車イスを贈呈していることから、中信支部も隣県の市区町村に贈呈されました。その後、中央大学学員会会長の久野修慈様の挨拶があり、話題は箱根駅伝の出場記録が途絶えたので大学でも学長始め、入学、資金面で援助して名門校を復活したいとのお話しが有りました。

中信支部による車椅子の贈呈

祝賀パーティーでは中央大学常任理事の神﨑茂治様の挨拶があり、大学の現状報告があり、地元塩尻産のワインと軽食が振る舞われ、12 時 20 分には閉会となりました。

一時休憩して 13時30分よりキッセイ文化大ホールにて指揮者を含めて 85 名の「中央大学音楽研究会吹奏楽部　松本公演」がフリーアナウンサーの石尾和子さんの司会で始まり、第 1 部オープニングステージでは、歌劇「蝶々夫人」、第 2 部ゲストステージは 68 名から成る松本市立鎌田中学校吹奏楽部が 2 曲、61 名から成る松本蟻ヶ崎高等学校吹奏楽部が 2 曲演奏し、第 3 部メインステージでは大和田雅洋先生の指揮で「ベイ・ブリーズ」等 3 曲、最後に大学生、高校生、中学生の合同が有り、2,000 名の観衆から盛大な拍手があり、最後に東北地震復興を願う「花は咲く」を合唱して終演時間大幅に延長して 4 時過ぎに終わりました。

その後、5 時閉館の松本美術館に行き、ニューヨーク在住の草間弥生画伯の奇才的な絵を拝見し、大急ぎにホテルモンターニュ松本にチェックインして東急ホテルにて 6 時から始まる懇親会に出席しましたが、参加者は思ったより少なく 50 名程でした。

地元の方と和気あいあいで飲食をし、ジャンケン大会もあり、地元名産の色々な景品を頂き、当白門会には塩尻名産のワインを各自頂きました。

8 時過ぎにホテルに帰り、昨年もお世話になったホテルの近くにあるスナック「トマト」で 2 次会を行い、10 時過ぎにホテルに戻りました。

翌日は、朝食を取り、9時にロビーに集合して午前中、川俣さんと20数年来の友人である松本市役所の藤森さんの紹介で造り酒屋「亀田屋」と松本城の近くにある蕎麦屋「たかぎ」でそばうち体験をしました。

亀田屋酒造店で自慢の地酒を堪能

最初に行ったのは創業明治2年の合名会社　亀田屋酒造店で六代目当主　竹本裕子さんの案内で蔵の敷地、屋敷を見学し、お店で毎年金賞を受賞している「秀峰アルプス正宗」「亀乃世　条次郎」大吟醸、純米酒等を試飲させて頂き、皆さんで沢山のお土産を購入しました。後で現地の肥後橋さんの話によると、私達が宿泊したホテルモンターニュ松本は、亀田屋酒造店が経営しているとの事でした。

次の目的地「たかぎ」に行きました。

ほとんどの方がそば打ち体験は初めてで、店主の指導より約40分でそばを打つことが出来ましたが、やはり、切るのが一番難しかったです。出来上がったそばを品評しながら昼食として食べ貴重な体験をしました。

その後は松本城で記念写真を撮り、1時47分発「あずさ20号」に乗り、右側に富士山を左側に八ヶ岳連峰を観ながら、1泊2日の旅を満喫して夕方には藤沢に着きました。

丹精込めた蕎麦のお味はいかが…

今回も昨年に続き、中信支部に歓待を受け、非常に喜んでいます。

有難う御座いました。

（副会長・旅行サークル幹事　城崎芳彦）

‖　平成 28 年度第 1 回役員会＆暑気払い会　‖

7 月 23 日土曜日、湘南の夏を象徴する湘南海岸で「平成 28 年度第 1 回役員会＆暑気払い会」が行われました。今回の場所は、片瀬東浜海水浴場の海の家『マイアミセンター洗心亭』。観光客が帰り始める午後 6 時より開始、参加者は 34 名でした。

役員会は、司会進行の小山副会長の開会の辞、片岡会長の開会の挨拶で始まりました。次に川俣事務局長より「①平成 28 年度活動状況報告」と「②今後の行事予定等の連絡事項」をお話しいただき、吉原副会長より「県下合同白門会参加表明の依頼」と続き、第一回役員会は無事終了いたしました。

お楽しみの「暑気払い」に移行する頃には、夕暮れの涼しい風と静かに打ち寄せる波音が BGM となっていました。

6 つのテーブルに分かれ、卓上いっぱいに広げられた料理と美酒を堪能しながら、賑やかな談笑が繰り広げられました。野外での役員会は初めての試みでしたが、参加役員の中には「たまにはこういうのも新鮮でいいなぁ」と、童心に返ったような笑顔を見せてくれる先輩も居られました。江ノ島と三浦半島を望みながらの宴です。時折、海水浴で戯れる若者達の声に振り向き、また目を奪われるのも余興の一つでしょうか。

あっという間に 2 時間が過ぎ、それぞれが名残惜しい思いを抱きながらも、最年少の高井会員の「一本締め」にて閉宴となりました。

その後は、ほろ酔い気分の幸せそうな表情で家路に向かう諸先輩、まだまだ話が尽きない役員は海岸沿いの別の場所に移動して二次会を始めました。各々が様々な話題に笑い声をあげ、楽しい時間を満喫しながら、白門会という仲間たちの夏の長い夜は更けていきました。

（若手委員長　杉山　洋）

‖　社会福祉活動委員会報告　‖

これまで社会福祉委員会では、新春のつどいなど大きな行事ごとに、多くの皆さまのご協力をいただき、募金活動を行って参りました。その結果、これまで皆さまからいただいたご寄付をもとに合計26台の車椅子を藤沢市へ寄贈して参りました。寄贈された車椅子は様々な場面で活躍していますが、今後ますます高齢化が進むとともに、皆様の温かい善意が生かされる場面も増えてくるのではないかと思われます。

また、夏には藤沢白門会の会報の印刷にご協力いただいている社会福祉法人光友会の「ふくし村まつり」が今年も盛大に行われました。地元の子供たちの太鼓の演奏や多くの模擬店等があり、多くの人出で賑わっていました。なかなか福祉の現場と関わる機会は少ないですが、こうした機会に施設を訪れ、様々な方と交流できることも大変有難いことです。これからも様々な福祉の現場に赴き、様々な方と出会い、藤沢白門会の活動を伝える機会が増えればと思います。

勇ましい太鼓が奏でられた「ふくし村まつり」

出店で賑わう「ふくし村まつり」の一幕

また、社会福祉委員会の立ち上げに尽力され、今日の委員会活動の礎を築かれた杉浦嘉昌さんが去る11月に永眠されました。杉浦さんは常に積極的に様々な活動に携わられ、傾聴ボランティアや手話、ローリングバレーボール、マラソンにおける全盲ランナーの伴走など、とりわけ障害福祉の分野において活躍をされてきました。中でも、ユニバーサルスポーツであるローリングバレーボールについては、自らコートに入ってプレーをするとともに、藤沢市ローリングバレーボール協会の設立に尽力され、会長職等を歴任されながら、ローリングバレーボールの普及に努めてこられました。藤沢白門会でもローリングバレーボールチームの活動にボランティアとして携わっている方もいらっしゃいますが、杉浦さんがよく大会挨拶等でおっしゃられていた「思いやりのパス」という言葉を思い出される方も多いのではないかと思います。

いま私達が「思いやりのパス」を受け継ぎ、次の世代へと社会福祉委員会の活動の輪を広げてゆくことが出来ればと思います。故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

（社会福祉活動委員会　原　輝雄）

中央大学
CHUO UNIVERSITY

遗失物 揭示板

サークル同好会活動

《ゴルフサークル》

第 31 回コンペと県下合同コンペ開催

「微風快晴の第 31 回コンペ」

第 31 回ゴルフコンペ（大厚木カントリークラブ　桜コース）

第 31 回のゴルフコンペは、2016 年 6 月 1 日、大厚木カントリークラブ桜コースを舞台に、快晴微風の好コンディションの中で行われた。参加者は 14 名であった。

大厚木カントリークラブ桜コースは、厚木市の北部にあり、山を切り開いて造成したわりには、アップダウンはほとんどなく、フラットなコース設計になっている。距離もさほど長くはないので、シニアゴルファーやレディースゴルファーにはたいへんに人気の高いコースである。コンペが行われた日は平日の水曜日であったが、ゴルフ場は満員であり、ゴルフ人口の減少が昨今叫ばれるなか、どこ吹く風と言った状況であった。

ここで少しゴルフ業界の現状を見ていこう。団塊の世代がビジネスツールとして盛んにゴルフを活用した結果、1994 年当時のゴルフ人口は約 1,200 万人にのぼった。団塊の世代が現役を引退した 2015 年には、約 800 万人にまで減少している。ゴルフ場、練習場、用具メーカー、ティーチングなど、ゴルフ業界の総売上は、1992 年には 2 兆 9,000 億円であったものが、2013 年には 1 兆 4,000 億円程度に落ち込んでいるのも納得できる。尾崎、青木、中島に象徴されるように、スター選手がしのぎを削っていた古き良き時代には、プロへの憧れからアマチュアはこぞって同じクラブやウェアーを買ったものであった。

必然的に業界全体も好況を呈し、ゴルフ産業はどんどんと成長していった。今はどうだろう。アマチュア 15 歳でプロの試合に勝った、はにかみ王子こと石川遼や松山英樹といったスター選手は日本のゴルフ界をいっとき沸かせたが、結局世界に羽ばたいていって、残された男子プロゴルフ界にはこれといった実力を備えたスター選手は見つからない。これではゴルフ離れが進むのも当然である。その点女子プロツアーは、実力のある新人が次々と育ってきており、加えてファッショナブルなウェアーやスタイル、ルックスの良さなどでたいへん人気があり、今や試合数と賞金総額は男子ツアーを凌いでいる。男性ファンの熱い視線を受けて、ますます女子プロツアーは盛り上がりをみせ、併せてファッション業界が女子プロや女性ゴルファーの取り込みに力を注ぎ、結果として

プレー前の参加者

アパレル関係の売上増につながっていることも女子プロツアーを活況に導いている要因だろう。男子プロツアーと女子プロツアーは、明と暗にはっきりと分かれている。こうした状況をどうやって克服していくのかが、男子プロツアーの運営団体やゴルフ業界全体の課題となっているが、そう簡単には解決策は見いだせそうもない。

長々とゴルフ産業の現状を述べたが、大厚木カントリークラブ桜コースを見る限り、どこにもこうした厳しい現状は見受けられない。もっともこのゴルフ場を経営している「アコーディアゴルフ㈱」は、全国に 120 を超えるゴルフ場を持っているが、地方のゴルフ場は決して大厚木のように売上は好調とはいかないようだ。その証拠に、多額の負債を抱えて経営も苦しく、2017 年 1 月にはとうとう敵対的買収、いわゆる TOB の対象となり株式は別会社が保有することになった。しかし、ゴルフ場自体はなくなる訳ではなく、これまでもこのコースで何回もコンペを開催しているので、今後もときどきは利用していきたいと思っている。

さて、コンペの結果であるが、次のとおりとなった。

優勝	川俣　誠	グロス 77	ネット 71
２位	梅澤　光世	グロス 89	ネット 72.2
３位	澤田　英樹	グロス 96	ネット 73.2

県下合同コンペは平塚白門会が担当

県下合同コンペ（レイクウッドゴルフクラブ西コース）

平成 28 年 11 月 10 日（木）、県下合同ゴルフコンペが大磯町にある名門、レイクウッドゴルフクラブで開催された。幹事は平塚白門会で、総勢 30 名が県下白門会から参加した。この行事は、毎年県内白門会が持ち回りで幹事を務め開催しており、今回が 7 回目となった。

参加者全員集合！

さて、会場となったレイクウッドゴルフクラブについて少し触れたい。設計は、アメリカで 160 以上のゴルフコースを手がけたデオドールＧロビンソンである。日本に初めてアメリカンスタイルのゴルフコースを輸入したと評されている。世界最高峰のアメリカ PGA ツアーが開催されるアメリカのゴルフ場は、島国日本のように丘陵や山岳を開発して作ったアップダウンの多いコースではなく、平坦な地形にデザイン

されていることにより、ほとんどのコースにおいて難易度をあげるために、池を巧みに配置した戦略性に富んだコースが多い。レイクウッドゴルフクラブは、その名前に由来されるように、池と森が効果的に配置された、まさにアメリカンスタイルのゴルフ場であり、攻略するためには高い技術力が要求される。神奈川県内はもとより、全国的にもこうした海外を感じさせるコースは数少ない。それだけにゴルファーの挑戦意欲をかきたて、名門と言わせるだけの資質をもっている。めったにプレーできるコースではないので、幹事を務めていただいた平塚白門会の皆さんには心から感謝したい。

今回のコンペは、アウトインに別れて同時刻に4組づつスタートした。この方式は、最初にプレーを終了した組が最終組をさほど待たずに表彰式が始めることができる、たいへんメリットがある方式である。藤沢白門会からは、田邊豊氏、遠藤主計氏、市川優氏と川俣の4人が参加した。難易度の高いホールが続き、4人ともに苦戦を強いられたが、難しいことも楽しみの一つである。終了後は全員でコンペルームにて表彰式を行い、参加者それぞれが大いに満足して帰路についた。次回は小田原白門会が幹事となった。

藤沢からの参加者

結果は次のとおりである。

優勝	萩原	俊和（相模原）	グロス 93	ネット 71.4
2位	藁品	孝久（茅ヶ崎）	グロス 98	ネット 72.8
3位	岸本	章（小田原）	グロス 88	ネット 74.8

（ゴルフサークル幹事　川俣　誠）

《囲碁サークル》

囲碁サークルは平成九年発足以来、月例会として楽しく活動してまいりました。会がスタートした当時は会員は十三名ほどで、常に七～八人は集まり、和やかな雰囲気で過ごしてまいりました。しかし現在まで新しく入会されたのは三人だけであり、その後は今日まで病気や自然退会された方等で、現在は常時活動している人は四人という状況です。会員の高齢化も進み時の流れを痛感させられておりますが、現在の会員は根っからの囲碁好きですので新入会員が増える事を期待しつつ、もう少し頑張ろうと話し合っているところです。

明治大学「鳥鷺会」との交流会

前号でもご報告致しましたが、明大鳥鷺会との交流会は順調に進んでおります。明大のサークルも中大と同様に高齢化が進んでいる状況ですが、会員相互で少しでも上達出来るようお互いに頑張っております。

現在の活動内容は次のとおりです。

一、定例会　奇数月の第三日曜日

二、明大との交流会　偶数月の第三日曜日

三、その他にプロ棋士による指導碁を年一回受けております。（指導者の大森八段は故大森茂男会員のご子息です。）

別紙に指導碁の棋譜を添付いたしました。

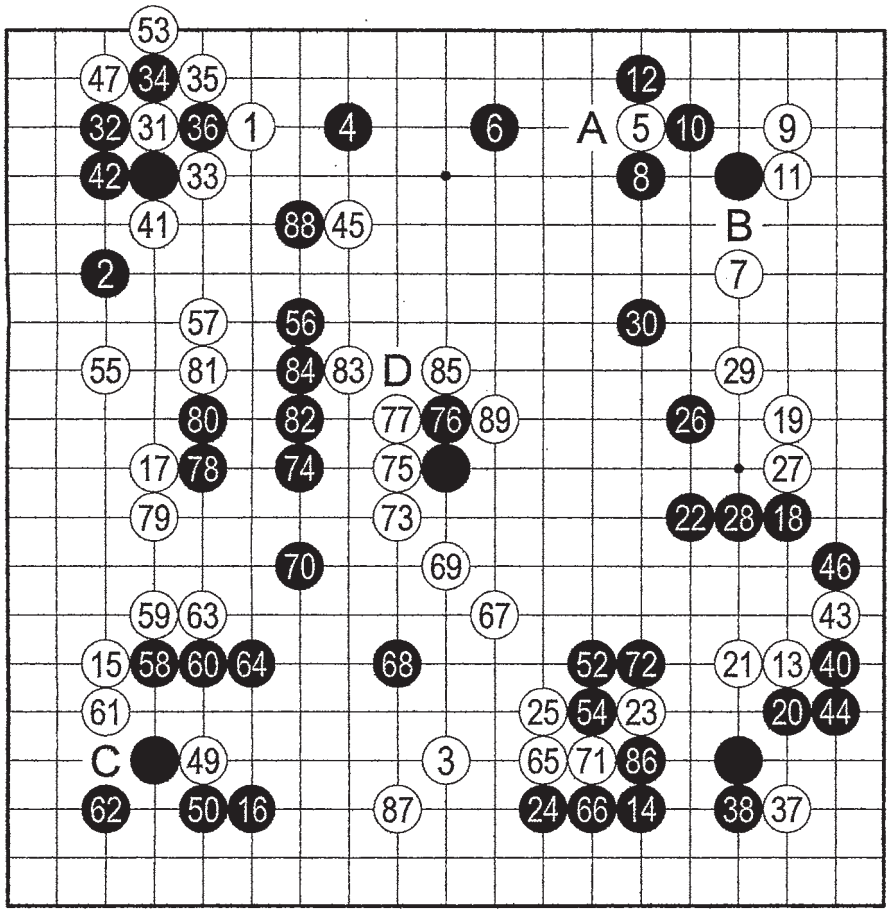
囲碁に興味をお持ちの方、是非ご参加ください。

（囲碁サークル幹事　長谷川　勇）

大森八段による指導碁

指導碁添削　五子　　2016 年 2 月 28 日

1 ～ 89 手以下略白 5 目勝



(39)(48)(51) ko at (31).

☆黒 12 では黒Ａの上からカカエが正着です。黒 14 ～ 30 まで大変良く打てています。

☆白 31 ～ 35 までコウに仕掛けました。※上手は形勢が苦しくなるとコウを仕掛けます。

☆黒 40 では黒Ｂのコウ立てをしてコウを争うところでしょう。次の白のコウ立てには受けずにコウを解消します。※左上隅のコウは見た目以上に大きなコウです。

☆ 41 のアテを一本利かされたのはツライ進行でした。コウの価値が小さくなります。

☆白 47 から再びコウが始まりました。黒 52 ではやはり黒Ｂが良かったです。

☆黒 54、白 55 のフリカワリは黒が少し損をしました。
　※ただし、コウを怖がらずに争ったのは良い気合いでした。

☆黒 56 は良い見当です。黒 58、60 のツケノビにまわって下辺の白二子を狙ったのも好手です。しかし黒 62 では黒Ｃのオサエでした。

☆黒 66 ～ 80 まで良い攻め方です。しかし黒 82 では黒Ｄのオサエでした。仮に白に繋がれても黒 88 にまわって上辺を大きな黒地に出来ます。実戦は白 83 ～ 89 まで中央で大きく生きられて、黒が打った手は（黒 82、84）一目も地を増やせていません。
　※全体的に良く戦えていたと思います。攻めながら地を増やす打ち方が出来れば完璧でした。

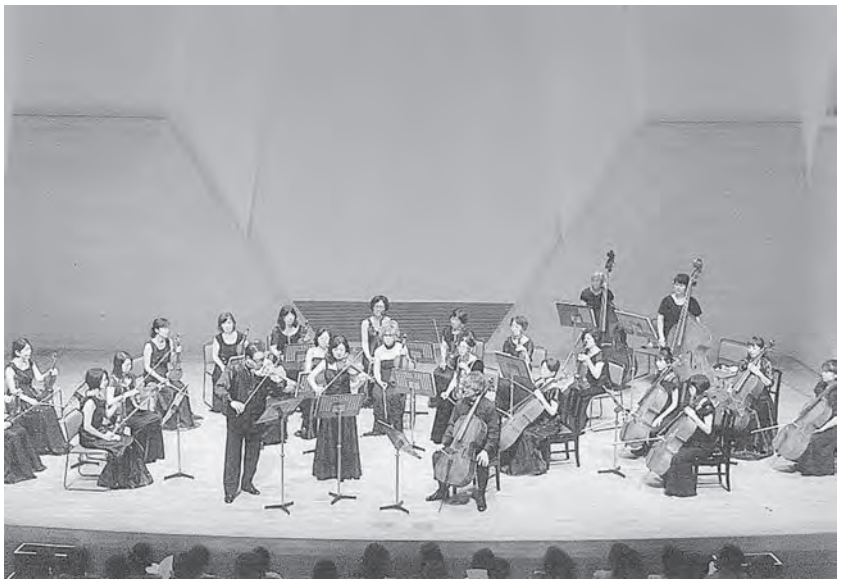
《音楽鑑賞サークル》

栄ゾリステン弦楽アンサンブルコンサートで第一・第二ヴァイオリンとチェロの協奏曲、実力派中央大学管弦楽団の「交響曲第６番・悲愴」などを観賞

平成28年最初の音楽鑑賞会は「NPO法人湘南フィルハーモニー管弦楽団第36回コンサート」（2月14日・茅ヶ崎市民文化会館大ホール）で、ルドヴィート　カンタ氏がチェロ独奏でエルガー／チェロ協奏曲ホ短調を素晴らしい音色で演奏、メイン曲のベートーヴェン／交響曲第３番変ホ長調「英雄」のパフォーマンスではさらにホールを沸かせました。

同月20日には「中央大学音楽研究会スウィング部スウィング・クリスタル・オーケストラ第58回定期演奏会」（2月20日･ヤクルトホール）でOpeningのSing Sing Singで華々しくレギュラーバンドが登場し、第１ステージでWhen I Fall in Love, Somebody' Waltzなど６曲を演奏して第２ステージのOB・OGバンドにバトンタッチ、ジュニア・バンドがThe Chicken, Shiny Stockingなど５曲を、引き続いてOB・OGバンドによってLet's Dance, Moanin'などヴェテランならではの粋なスタイルの演奏を楽しませてもらいました。最後のステージに再びレギュラー・バンドが登場してRhapsody in Blue,Stardustなど５曲をパワフルに演奏してジャズの醍醐味を大いに感じさせてくれました。「Little Brown Jug」のアンコール曲でジャズ・コンサートが終演となりました。

風薫る五月には第96回音楽鑑賞会「中央大学管弦楽団第75回定期演奏会」（5月28日・パルテノン多摩・大ホール）で新入団員がパフォーマーに加わったなかで、W.A.モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」序曲から始まりA.ドヴォルザークのスラブ舞曲集（４曲をセレクト）の演奏、メイン曲のドヴォルザーク／交響曲第８番ト長調の第４楽章は、トランペットのファンファーレ、ティンパニーのソロ、チェロとホルンの演奏が印象に残りました。アンコール曲はJ.ブラームス／ハンガリア舞曲第６番の演奏など感動に満ちたコンサートで暮れの定期演奏会がより楽しみとなりました。



第１・第２ヴァイオリンとチェロの協奏曲の共演

立秋が過ぎても暑い日が続いた９月下旬の音楽鑑賞会は「第12回栄ゾリステン弦楽アンサンブルコンサート《山田慶一　常任指揮10周年記念》」（9月19日・栄区民文化センター・リリス）で栄ゾリステン弦楽アンサンブルコンサートは今回で３度目の共演となるN響次席チェロ奏者藤村俊介氏の独奏と第１ヴァイオリン独奏山田慶一氏、第２ヴァイオリン独奏千原友子さんによるヴィヴァルディ／「《調和の霊感より》２つの

ヴァイオリンとチェロの為の協奏曲ニ短調」の演奏は何とも言えない素晴らしい音色のコラボで観客を惹きつけました。アンコール曲は山田慶一、藤村俊介両氏によるバッハ／「管弦楽組曲第２番」のロンドが演奏されて、最後のステージでは華麗な弦楽の調べを奏でたチャイコフスキー／弦楽六重奏曲ニ短調「フィレンツェの想い出」で盛り上がってコンサートを締めくくりました。

今年最後の第98回音楽鑑賞会は「中央大学管弦楽団第76回定期演奏会」（12月22日・すみだトリフォニー大ホール）で、オープニングは以前に中央大学吹奏楽部の定期演奏会でも演奏されたA.ボロディンの歌劇「イーゴリ公」より「ダッタン人の踊り」が演奏され、弦楽器が加わった管弦楽では明らかに曲想の違いを感じて聴き入りました。続いて團　伊玖磨／交響曲第１番イ調で、この曲は一つの楽章のみからなっていて弦楽器群から始まり、やわらかく演奏されるオーボエ、金管楽器そしてティンパニーの際立った演奏の盛り上がりのなかに静かに終曲されていく。最後のステージはお馴染みのP.I.チャイコフスキー／交響曲第６番ロ短調「悲愴」で第１楽章はコントラバスとファゴットが陰鬱に主題を奏で、ヴァイオリンとヴィオラが甘い旋律を歌い、クラリネットのソロと聴き応えのある楽章でありました。第２楽章へ入り一転して優雅で軽快なテンポのワルツで、チェロと木管楽器の演奏が見ものでした。第３楽章は弦楽器、木管楽器、金管楽器の演奏とともにこの楽章のみに登場するバスドラムとシンバルが一層マーチらしさを高めてこの楽章が終わります。そして最終楽章はトロンボーンとテューバの暗く陰気な雰囲気を奏でて最後にコントラバスの刻む音が何とも言えない静寂さを醸し出して曲を締めくくりました。アンコール曲では『バレエ「白鳥の湖」よりワルツ』が優しく優雅に演奏されて終演となりました。

ホールを沸かせた交響曲「悲愴」の名演奏ステージ

今年の音楽鑑賞会は５回開催しましたが、時折、情報交換して自由気ままにコンサートに足を運んでみました。

○７月２日　「中央大学研究会第58回ジョイントコンサート（パルテノン多摩・大ホール）

○９月11日　NPO法人　癒しの医療を考える会「第12回身体にいい音楽会」（藤沢市民会館・小ホール）

○12月23日　「慶應義塾アインクライネスオーケストラ第25回定期演奏会（鎌倉藝術館大ホール）・チャイコフスキー／交響曲第５番ホ短調　作品64

音楽鑑賞サークル（同好会）活動状況（28 年 2 月以降）

2016（平成 28）年

○ 2 月 14 日　第 94 回音楽鑑賞会（クラシック）開催（茅ヶ崎市民文化会館大ホール）

NPO 法人「湘南フィルハーモニー管弦楽団第 36 回コンサート」

・ベートーヴェン：劇付随音楽「エグモント」序曲ヘ短調　Op.84

・エルガー：チェロ協奏曲ホ短調 Op.85　チェロ独奏　ルドヴィート　カンタ

・ベートーヴェン：交響曲第 3 番「英雄」（Sinfonia Eroica）変ホ長調 Op.55

＊指揮　清水　謙二　　コンサートマスター　大宅　一哉

・アンコール曲：ドヴォルザーク／「スラブダンス」

○ 2 月 20 日　第 95 回音楽鑑賞会（スウィング・ジャズ）開催（新橋「ヤクルトホール」）

「中央大学音楽研究会スウィング部スウィング・クリスタル・オーケストラ第 58 回定期演奏会」

第 1 ステージ：レギュラーバンド Quietude, The Secret Champ など 6 曲

第 2 ステージ：ジュニアバンドが Charlie the Whale, Moment's Notice など 5 曲、OB・OG バンドが I've Got You Under My Skin（with Vocal）など 4 曲

第 3 ステージ：レギュラーバンドが I Got Rhythm, West Side Story など 5 曲

各ステージとも多彩なジャズ・ナンバーが演奏されました。

・アンコール曲　Swing Crystal Orchestra 演奏「Little Brown Jug」

○ 5 月 28 日　第 96 回音楽鑑賞会（クラシック）開催（多摩市「パルテノン多摩・大ホール」）

・W.A. モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」序曲 K.492

・A. ドヴォルザーク：スラブ舞曲集

第 1 集作品 46 第 1 番　ハ長調 Furiant 第 6 番ニ長調　Sousedska

第 8 番　ト長調　Furiant

第 2 集作品 72 第 8 番変イ長調　Sousedska

・A. ドヴォルザーク：交響曲第 8 番ト長調　作品 88

・アンコール曲　J. ブラームス／ハンガリー舞曲第 6 番

コンサートマスター　星名　克彦

＊常任指揮者　佐藤　寿一

○ 9 月 19 日　第 97 回音楽鑑賞会（クラシック）開催（本郷台「栄区民文化センター・リリス」）

「第 12 回栄ゾリステン弦楽アンサンブルコンサート≪山田慶一　常任指揮 10 周年記念」≫

・ハイドン：弦楽四重奏曲ニ長調 Op.64–5「ひばり」

・ヴィヴァルディ：≪調和の霊感より≫ 2 つのヴァイオリンとチェロの為の協奏曲　ニ短調 Op.3–11

第 1 ヴァイオリン独奏　山田　慶一

第 2 ヴァイオリン独奏　千原　友子

チェロ独奏　藤村　俊介

・アンコール曲：バッハ／「管弦楽組曲 2 番のロンド」山田・藤村氏演奏

・チャイコフスキー：弦楽六重奏曲　ニ短調　Op.70「フィレンツェの想い出」

Arranged by Lucas Drew(合奏版)

・アンコール曲：「フィレンツェの想い出」の第 2 楽章後半

コンサートマスター　山田　慶一

○ 12 月 22 日　第98回音楽鑑賞会(クラシック)開催(墨田区錦糸町「すみだトリフォニー　大ホール」)
「中央大学管弦楽団第 76 回定期演奏会」

・A. ボロディン：歌劇「イーゴリ公」より「ダッタン人の踊り」
・團　伊玖磨：交響曲第 1 番イ調
・チャイコフスキー：幻想序曲「ロメオとジュリエット」
・P.I. チャイコフスキー：交響曲第 6 番ロ短調「悲愴」Op.74
第 1 楽章　Adagio-Allegro non troppo
第 2 楽章　Allegro con grazia
第 3 楽章　Allegro molto vivace
第 4 楽章　Adagio Lamentoso-Andante
・アンコール曲：チャイコフスキー／バレエ「白鳥の湖」よりワルツ
コンサートマスター　星名　克彦
＊常任指揮者　佐藤　寿一

末尾となりましたが第 96 回、第 98 回音楽鑑賞会の開催にあたっては中央大学管弦楽団の部長、総務担当の役員の方々には、多大なるご高配をいただきましたことを心から感謝申しあげます。

（音楽鑑賞サークル幹事　座間　毅）

《写真サークル》

今季の写真サークルの活動は撮影会の都度、天候不順で中止。その上当会の有力メンバーの長期入院という不慮の事態が起き最悪の年でありそうな年だった。

一、　写真サークルの上期はアンラッキーな事象の連続でした。先ず我々サークルの写真撮影の中心的存在である駒井さんが、重度の脳梗塞の為昨秋入院、当分の間復帰は難しいであろうという奥様からの連絡が入ったこと。

残るのは、長島長老を中心とした三名のみ。そこで、二月十六日急遽、市民会館三階ホールに集い、今後の写真サークルの運営をどうするか話し合う。

「休会にしますか」という意見も出たが、西島さんから「否、存続してやっていこう」と云う強い意向が示され、当会の撮影活動について検討。その結果

1．四月四日に「江の島海岸からのダイヤモンド富士の撮影」

2．五月上旬に「富士市大淵の茶畑からの富士」は如何でしょうという提案に対しては「富士はもう沢山」いう人もおり、これは個人撮影のテーマとすることにした。

3．八月の例年の若手会主催による「地引網大会に参加し炎天下で網を引く情景を写真にし、一枚のパネルにしたら迫力のあるパネルとなり、参加者にも関心をもたれるのではないか」という提案があり「それはいい」と云う事になり、実施することとなる。

しかし、いずれの企画も天候不順につき中止となり、上期は成果なしで終わってしまった。

笹場の茶畑（富士にガスがかかり暗い富士）

二、　改めて下期計画を検討すべく、八月三十日同じく市民会館のホールに集合。

市民ギャラリーに飾られた見事な写真を背に

色々の提案もあったが結局十一月下旬都内の公園の紅葉を撮影することに決定し打ち合わせは終了する。

そして、予ねて大木樹雄さんから案内のあった「なぎさ瞳の会写真展」を三人で参観に行く。広い会場一杯に、しかも「A3」の写真が展示されており、その作品全てが我々のよりもずっと高いレベルのものばかりで圧倒される。勿論、大木さんの力作三点も展示されており頭の下がる思い。

そこに、当の大木さんが現れ写真談義が始まる。話の中で「我々サークルも十一月下旬に都内の公園数ヶ所で紅葉の撮影会を計画しているので参加しませんか」とお話すると「日程が合えば参加させて下さい」とのご返事。「では予定がきまったらご案内致しますので、是非ご参加ください」といい別れる。

我々の撮影会は山手線内の六義園と甘泉園を下見の上、十一月二十九日に行うことに決定し、撮影会の案内状を大木さんも含めて送付すると、大木さんからも参加するとのうれしいご返事。但し高島さんからは腰痛が激しい為欠席との返信。大木さんに参加頂けなければ二人の撮影会となる為有難い限り。

さて、当日は好天候に恵まれ大勢のカメラマンと先ず六義園に入場。モミジも真っ赤に染まり絶好の紅葉の写真が期待できそう。

三人共、各々目指す被写体を求め園内を駆け巡る。気がつくと午後二時を過ぎており近くのベンチを見ると疲れ切った顔に笑みを浮かべ座っている二人。さぞやいい写真が撮れたものと作品に期待する。第二撮影地はパスし撮影会を終了して帰途につく。

六義園撮影会終了のスナップ

車中で大木さんに「できれば新年会の写真展示にゲストとして展示して頂けませんか」とお願いした処、快く了解を頂けた。これで箱根駅伝のパネルもない、今年の写真展示を少しは賑やかにして貰えたとホットした次第。

一月中旬に品評会を開催し「新春のつどい」を待つ予定である。

最悪の今年の写真サークルも、大木さんの支援も頂き、何とか無事終了することが出来そうな二〇一六年である。

（写真サークル幹事　増田隅雄）

西島一光さんによる、日蓮宗総本山
「身延山久遠寺」のしだれ桜

《緑と歴史散歩サークル》

平成 28 年度の緑と歴史散歩サークルは、恒例の例会を 2 回（第 54 回、55 回）実施したほか、川崎白門会主催の行事にも積極的に参加し、近年にない活動を展開した年であった。第 54 回例会では、一般公開された迎賓館赤坂離宮を見学し、第 55 回例会は、日本の開国を担った横浜の開港史跡を散策した。

第 54 回例会「迎賓館赤坂離宮見学」

晴天に恵まれて暑い位の 6 月 11 日（土）の午後、JR 中央線四ツ谷駅に集合し、迎賓館赤坂離宮を目指した。歩くこと約 10 分、広大な敷地にネオ・バロック様式の西洋風宮殿が拡がる。「迎賓館赤坂離宮」である。迎賓館は、かって紀州徳川家の江戸中屋敷があった敷地の一部に、明治 42 年（1909）に東宮御所（後に赤坂離宮となる。）として建築された。構造は鉄骨補強煉瓦造りで、地上 2 階地下 1 階の耐震、耐火構造となっており、明治時代の建築家片山東熊の総指揮の下に、当時の一流建築家や美術工芸家が総力を挙げて建設したものです。この建物は、昭和天皇や今上天皇が一時期お住まいになった以外、東宮御所としてあまり使用されることなく、戦後、建物、敷地共に皇室から行政に移管され、国立国会図書館、内閣法制局、東京オリンピック組織委員会などの公的機関に使用されていた。その後、改修工事を行い、世界各国の国王、大統領、首相などの国賓、公賓の迎賓施設として使用されてきたもので、この度、一般公開されることになり、我が歴史散歩サークルとしても日本の歴史を学ぶ施設の一つとして見学会を実施したものである。

迎賓館赤坂離宮にて

当日は、事前申込をした 9 人が参加した。まず、迎賓館正面から入り、前庭を見学した後、西門から再度入場し、多くの見学者と共に本館を見学した。厳しい警備が敷かれた中で、本館の要所要所に説明役の係員が配置され、またテープでの解説が流れていたので内部の施設・装飾等が良く理解できた。部屋の内部はいずれも天井が高く、豪華なシャンデリアがあり、また和洋を取り込んだ絵が描かれるなど絢爛そのもの。東宮御所や迎賓施設となるにふさわしい宮殿となっており、明治人の心意気がそこかしこに感じられた。特に、朝日の間の天井に描かれた「朝日を背にして女神が香車を走らせている姿」の絵が素晴らしい。本館を見学した後は、噴水のある中庭で記念写真を撮り、見学を終了した。一般公開は現在も続けられており、ゆっくり見学するため再度来館したいものだと感じた次第である。

中庭の噴水前で記念撮影

第 55 回例会「横浜開港史跡散策」

それまで続いた秋の穏やかな天候が一変し、肌寒い一日となった 10 月 30 日（日）の午後、地下鉄みなとみらい線の日本大通り駅に集合し、まず横浜開港史跡のシンボルでもある三塔（キング・クイーン・ジャック）を見学した。横浜三塔の愛称は、昭和初期に外国船員がトランプのカードに見立てて呼んだことが由来と言われている。「キング」神奈川県庁は、五重塔をイメージさせるスタイルで、昭和初期に流行した帝冠様式のはしりといわれている（1928 年竣工）。クイーン横浜税関は、イスラム風のエキゾチックなドームが特徴だ（1934 年竣工）。「ジャック」横浜市開港記念会館は、東南隅に時計塔、西南隅に八角ドーム、西北隅に角ドームを配している。戦争等をくぐり抜けてきたこれらの三塔を一日で巡ると願いが叶うという伝説もある。10 月 30 日はベトナムデーで日本大通り周辺はお祭り一色になっており、県庁本館（キング）も公開していた。

「キング」の象徴、神奈川県庁を見学

川崎白門会からの参加を含め 20 人の会員からなる我がサークルは、横浜シティガイド協会のガイドの案内のもと、キングの内部を見学。屋上から三塔や大桟橋を一望のもとに見ることができた。ガイドの説明を受けながら知事室や貴賓室、その昔議場として使われていた大会議場も子細に見学した。一般公開という幹事の在職中にはなかった県の新たな取り組みに感慨深いものがあった。三塔を後にし、山下公園から山手に向かう。ホテルニューグランドの入口には「祝横浜開港 157 周年」の看板が掲げられていた。1859（安政 6）年の開港から実に 1 世紀半、横浜が担った歴史の重さが伝わる。山手へは通常フランス橋を渡り港が見える丘公園の急な階段を登るか、谷戸坂の急坂を登るかであったが、元町・中華街駅構内のエレベーターによりアメリカ山に入る何とも楽なコースが用意されていて、高齢者が多い我がサークルには大助かりであった。港が見える丘公園から横浜港を見て山手本通り沿いに洋館や外人墓地を見て歩いた。カトリック山手教会前にある現在使用されていない元の中央大学横浜山手中・高跡の校舎前で記念写真を撮り散策を終了した。ガイドの解説付きということもあり、県庁から山手まで開港の往時を偲ぶ意義のある散策となった。ただ、曇天で風が冷たく、かつ 10㎞ほどの長距離を歩いたため、会員の中には非常な体力消耗となったメンバーも出た。山手校舎から坂を下り、石川町駅から次の目的地である横浜駅周辺でのサロン会を兼ねた懇親会会場に着いた時は、全員激しい疲れに痺れた一日ともなった。

寒風吹く中、横浜山手中・高校舎前で記念撮影

「川崎白門会行事への参加～川崎港海上クルージングと鎌倉源氏山ハイキング」

川崎白門会では、毎年夏に川崎港湾の海上視察（巡視船あおぞら号クルージング体験会）を続けており、今年も8月24日（水）に開催の行事にお誘いを頂き、藤沢から9名が参加した。川崎市の巡視船あおぞら号で川崎港を一周し、海上から港湾施設や物流施設、羽田空港、アクアライン等を見ることができた。工場地帯というイメージの強い川崎臨海部だが、物流拠点として発展している様をまざまざと感ずることが、感銘を受けた。

川崎白門会とコラボしたクルージング体験会

11月5日（土）の鎌倉源氏山ハイキングには藤沢からの参加は1名と少なかったが、秋晴れの好天のもと、久しぶりに心地よい汗をかいた一日となった。

来年度も川崎白門会とのコラボは続ける予定としている。

（緑と歴史散歩サークル幹事　澤田英樹）

《白門サロン会》

第52回サロン会は、平成28年3月27日（日）、ベトナム屋台酒場「ビアホイ・シクロ」に19名の会員が集まり、店主の計らいもあって貸切利用となりました。食事はプリップリのエビの入った生春巻きやベトナム風お好み焼き、そして〆のフォーなどベトナム料理をたっぷり堪能することができました。料理とともに、飲み物はベトナムビールとして有名な「333」や「SAIGON」などアジアンテイストのビールが何種類も用意されており、ベトナム焼酎を含めて参加者それぞれが好きな名酒を味わうことができました。

第53回サロン会は、平成28年10月30日（日）、「緑と歴史散歩サークル」と合同開催することとなり、当会には「煌蘭」横浜店に24名が集まりました。午後の横浜開港史跡散策で長い道のりを制覇した疲れも加わり、美味しい中華料理とビール、紹興酒などをじっくりいただきながら、楽しい会話で盛り上がりました。

第54回サロン会は、平成29年2月19日（日）、イタリアンレストラン「ポルトヴィーノ」に20名の会員が集まりました。モチモチとして美味しいフォカッチャをはじめ、湘南らしいしらす入りのペペロンチーノなどのイタリア料理に舌鼓を打ち、ワインやビールで大いに盛り上がりました。

サロン会は現在30名強の会員で構成されており、次回は平成29年晩秋～初冬に、ふぐを賞味する会の開催を予定しております。ご興味のある方は是非幹事までお知らせください。ご案内状を発送させていただきます。

（白門サロン会幹事　林　孝靖）

《レディース会》

平成 28 年 7 月 2 日（土）サンパール（藤沢さいか屋）八階「煌蘭」にて、藤沢白門会レディース会が開かれました。今回も、藤沢白門会の女性会員に加え、相模原白門会から木藤良子さんを迎え、開催することができました。木藤さんには、前回二月のレディース会を木藤さんのお店をお借りして開くなど、大変お世話になっています。

当日は、それぞれの近況報告や趣味の話など女性ならではの話題で盛り上がることができました。

近年、女性の社会進出は著しく、短大も含めた大学卒業者は、ますます増加する傾向にあります。そうした中で、男女共同参画社会とは言いながら、女性には結婚、出産を機として、勤めから離れるといったことは少なくありません。雇用制度、保育環境の充実など、まだまだ制度上の問題も多く残されています。これらの諸課題について、大先輩である千葉景子さんから多くのご教授をいただくこともできました。

また、神田駿河台に校舎があった頃は、他大学との距離も近く、他校との交流も多かったことなど、懐かしいお話も聞くことができました。そうしたいろいろな人との交流が、社会に出て大いに役立つ面があることもとても参考になるお話でした。今の大学は、授業はとても充実しているようですが、学生の時にしかできない社会勉強の面からは、余裕がなくなっているのかもしれません。

現在の多摩キャンパスでは、一度校内に入ってしまうと、娯楽施設があるわけでもなく、なおさら勉学に励むより他になかったのかもしれません。小さい頃から、受験一筋の勉強をしてきて、頭でっかちになっている学生も多く見受けられることでしょう。人と人とのコミュニケーションを大事にするということは、それだけ多くの人とかかわりをもつことに他なりません。大学時代に知識だけでなく、多くの人との出会いを大切にし、その関係をずっと続けていけたらいいなと感じました。

藤沢白門会をとおしても、多くの先輩方や同世代、若い世代の方と語り合い、ふれ合う中で、今後も自分自身を磨き続けていけたらいいと思います。

ここ数回、他支部の方との交流も深めることができています。ぜひ、藤沢白門会のレディース会員の多くの皆様にこの会にご参加いただき、人の輪を広げていけると良いと考えています。お忙しい中、ご参加いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

（レディース会幹事　端山徳子）

◇◆母校の近況◆◇
中央大学にとって箱根駅伝は、特別な存在！

白門ミーティングが全国を７つのブロックに分け、関東・甲信越ブロックの各支部を対象に11月23日（水）京王プラザホテルで開催されました。

会議の趣旨

本部と各地区ブロック並びに各支部間の連携を密にして、各ブロック及び各支部における現状の課題を把握するとともに、本部や大学への要望を今後の学員会の運営に反映するため、情報の共有や各支部の出席者とのコミュニケーションを図り、学員ネットワークの拡充・強化に繋げたい。

参加者（44名）

中央大学

理事長、4人の常任理事、事務局長

学員会本部

会長、8人の副会長、事務局長、課長

関東ブロック（東京を除く）

茨城、群馬、埼玉、千葉県、流山白門会、京葉白門会、横浜白門会、川崎白門会、藤沢白門会（片岡会長　吉原副会長）、平塚白門会、相模原白門会

甲信越ブロック

新潟、新潟中越、白門会長野、長野県中信、飯田白門会、諏訪

一部　意見交換会（14：00～17：00）

久野学員会会長の挨拶の後、深澤理事長の挨拶では、過日藤原駅伝監督と野村陸上部部長に会って箱根駅伝については、従来以上に駅伝の強化をしていきたいとの趣旨の話がありました。その後、高嶋学員会副会長の司会で、双方向の対話方式で参加支部の一人ひとりが今後のあり方・どうあるべきかについて学員会本部・大学に対して意見及び提案を行いました。特に箱根駅伝は、各支部共通の思いが話されました。スカウトから入学後の育成及び就職先まで強力に行い、先ず予選会を通過しシード権を確保して、常に優勝争いをする様になって頂きたい等の意見でありました。白熱した会議は、予定時間をオーバーして行われました。

藤沢白門会が、事前に学員会本部に提出した意見は、別紙のとおりです。

二部　懇親ミーティング（17：15～18：30）

学員会本部の会長・副会長や大学の理事長・常任理事や各支部参加者の懇親を更に深める為行われました。

名刺交換や箱根駅伝の話等あちこちで懇親の輪が広がりました。大変有意義な会議及び懇親会でした。

（副会長　吉原和義）

□□学員会本部に対して、『報告・意見書』として、以下の内容について上申（支部長・片岡久興）しました。同報告・意見書は、学員会本部、学校法人中央大学、支部活動報告から構成されております。□□

学員会本部　御中

報 告 ・ 意 見 書

支 部 名	藤沢白門会支部	提出日	平成２８年１１月２日
支部長名	片岡　久興		

学員会本部

●学員会本部の事業・活動等に対する質問・意見・要望等がありましたら、具体的にご記入ください。

○学員会ホームページで各地の活動状況などをこまめに紹介することによって、各支部白門会の活性化を図り、連携を保つこと。また、学員会ホームページは、大学のホームページの一部に入っておりスピード感と独立性に欠けるので、改善すること。

○大学の進学アドバイザーをサポートする組織を学員会に作り、進学アドバイザーの母校、あるいは担当する学校の情報を共有しながら、そうした学校を進学アドバイザーとともに訪問することにより、受験生の増加をめざすこと。

○各支部・白門会に最近若手会（平成会）が結成されているが、これらの親睦交流を促し、活性化を図ることにより、将来の発展につなげること。

○学員会会員のうち、企業経営者に対して卒業生、とりわけ体育会系の学生を採用するよう働きかけること。

○学員会会員の中で、スポーツや実業界で活躍、成功している人達の紹介をマスコミを含めたメディアを活用し、広く広報することにより、大学のステータスを高めること。

○各支部・白門会が直面している問題が、会員数の伸び悩みとそれに伴う高齢化であり、会員の新陳代謝が進まず、硬直化しているのが現状である。これを改善する手だてとして、若手や女性会員の獲得が必要不可欠となるが、こうした会員を勧誘するための経費（郵送費等）を補助する制度を創設すること。

○大学と学員会の協働作業として、年に２～３回学内の清掃ないし草花の植え付けあるいは、錦鯉のいる池や花壇の手入れなどを行うこと。学員の中には高齢者も多く、比較的時間に余裕があると思われるので、一度で無理ならブロックごとに地域を分けて実施する方法もいいのではないか。こうした活動により、東京の私立大学で、キャンパスの美しさＮＯ１を目指したらどうか。

学校法人中央大学	●大学の経営、教育・研究全般に対し、質問・意見・要望等がありましたら、具体的にご記入ください。 ○２０２５プランを着実に実施することが大学のブランド回復になる。この計画を必ず実行するという強い決意を見せて欲しい。そのために、年度毎に広く世間に進捗状況を発信することが必要である。社会において頑張っている全国の学員が心から誇れる中央大学を復活し、その名を高めてほしい。 ○２０２５プランの実行に伴い、身を切る改革、例えば人件費の削減などを行い、浮いた資金を新たな充実策に振り向ける。 ○文武両道をめざして、総合的な大学教育の充実を図るべき。そのためには、大学の未来を拓く優秀な人材を確保することが重要であることに鑑み、地方学生が在学しやすい環境整備を行い、これを積極的に広報すること。また、有用な広告塔となる体育会系学生の確保に向けた経済的支援を強化すること。更にこうした学生達の就職を優位に進めるためのカリキュラムを導入し、企業とのパイプを強化すること。 ○都心回帰による理工学部敷地の狭隘化を極力避け、学生達の充実したキャンパスライフに配慮した計画とすること。 ○旧山手校の有効活用を図ること。 ○付属の高校に強い運動部を育成すること。例えば、中大附属にはバレー部、中大横浜には駅伝部など。
支部活動報告	●他支部に参考になると思われるような事業・活動等がありましたら、具体的にお知らせください。 ○湘南ユニバーシティークラブ（ＳＵＣ）を、藤沢を中心とした湘南地域にある１５大学のＯＢ会により組織しており、年１回の交流会を幹事持ち回りで開催するほか、１月に実施される「湘南藤沢市民マラソン」のボランティア活動に取り組んでいる。 藤沢白門会が各大学ＯＢ会に声をかけ結成してから今年で２０年目を迎えている。 ○藤沢白門会の中に「若手会」を設け、年１回全会員を対象とした地引網大会を開催したり、若手のみを対象とした「ボウリング大会」や「忘年会」、あるいは新入会員を対象とした「新入会員歓迎会」などを行っている。若手会の会長、副会長は、藤沢白門会全体の行事にも中心的な役割を担ってもらっていて、次世代育成にもつながっている。 ○藤沢市の社会福祉協議会に対して、社会福祉活動の一環として毎年「車イス」を１～２台寄贈している。この活動は、平成１２年から始まり、通算の寄贈台数は２６台となっている。昨年１０月には、藤沢市からその功績に対して表彰を受けた。

中央大学のグローバル活動

―時代ニーズの適応する多彩な活動展開

●国際連携推進機構

今日において、国際化の推進は、世界的に存在感のある多様性を持った大学として、学術文化の発展に貢献するために、最も力を注ぐべき課題です。その課題に応えるべく、本学の国際化をさらに推進し、新たな課題に対応するため、国際化に関する全学的な基本方針の策定及び、その方針に基づく社施策の実施を目的に、学長を機構長とする「中央大学国際連携推進機構」が設置されています。同機構のもとには、「国際連携推進会議」があり、「国際センター」と連携して国際化を推進する体制が整っています。

○国際センター

「グローバルパーソン」の育成―語学力・幅広い教養・突出した行動両区を培う。

・グローバル・ジェネラリスト

国際感覚をもって実務を主体的に着実に遂行。多様性の中で自確(Identity)を高め、相互理解を図る。

・グローバル・リーダー

広い視野で問題解決に取り組む。高度な組織的行動能力で創発をリード。

・グローバル・スペシャリスト

磨かれた専門性で創発する。高度な知識獲得力と創造力をグローバルに活かす。

●海外拠点

本学は、2013 年 12 月にハワイ大学マノア校イースト・ウエストセンター内（オアフ島ホノルル市）に海外拠点第 1 号を設置したのに続き、2014 年 12 月、タマサート大学法学部日本法研究センター（タイ・バンコク）に海外拠点第 2 号を設置しました。

タイ・バンコクには、本学 OB 会組織である学員会の海外における最大級の支部である「バンコク白門会」もあり、それらの協力を得られる状況から、今後ますます交流活動が盛んになることが見込まれます。

（『中央大学大学概要 2016-2017』より抜粋）

（学員時報第 490 号より転載）

組　織　図

中央大学学員会藤沢白門会組織図

平成28年4月24日現在

（任期：平成28年4月24日～平成29年開催の定期総会終結時まで）

総会　全会員

役員会　82名

（常任役員会：名誉会長・会長・副会長・監事・相談役
委員会正副委員長・事務局長・事務局次長・会計）

会長　片岡　久興(41)

（顧問会：会長・副会長・監事・相談役・顧問
事務局長・事務局次長・会計）

監事(2人)
大木　樹雄(39)　小崎　誠士(41)

事務局(5人)
局長　川俣　誠(55)　次長　川崎　隆之(62)
大沼　敬正(63)　原田　芳一(H4)
岸本　寛之(H16)

会計(2人)
主任　*菊地　誠(H10)*　遠藤　主計(53)
幡谷　智之(H8)

副会長(9人)

	若林　貞行(40)
(箱根駅伝応援)	城崎　芳彦(44)
(会報)	川島　清憲(46)
(渉外)	吉原　和義(48)
(親睦行事)	澤田　英樹(49)
(総務)	小山　勝男(51)
(社会福祉活動)	八城　義友(53)
(会計)	遠藤　主計(53)
(事務局)	川俣　誠(55)

顧問会座長(代行) 片岡　久興(41)

相談役(副会長経験者：6人)
西島　一光(26)　佐藤　洋司(32)　杉森　淳(33)
服部　治(35)　時枝　誠(39)　石原　昭憲(41)

顧問(26人)
長谷川武夫(26)　瀧野　秀雄(27)　長田　源弘(27)
飯島　東助(29)　小田　正二(31)　豊田　松夫(32)
細田　實(32)　鶴田　明邦(33)　中津川　彰(33)
日下　琢己(34)　野口　義之(34)　大森　靖朗(35)
駒井　登(35)　三鬼　喜郎(35)　長谷川政彦(36)
番場　定孝(38)　中谷　哲夫(38)　髙橋　紀男(38)
安田　厚(38)　大内　昭雄(39)　五島　英清(41)
鉢蝋　博(43)　古寺　康則(44)　深沢　宗一(45)
千葉　景子(46)　畠中　真一(50)

理事（◎印担当責任者　○印副担当責任者）

親睦行事委員会(22人)
◎澤田　英樹(49)
○井出　豊(60)
永友　博之(37)
諏訪間幸男(39)
木水　民雄(43)
神沢　弘一(45)
杉山　泰則(52)
吉田　弘明(54)
永井　譲(57)
本間　徳也(58)
大橋　賢也(H4)
重田　博章(H6)
原　輝雄(H10)
中島　知慧(H25)

（サークル幹事12人）
○井出　豊(60)
杉森　淳(33)
中谷　哲夫(38)
座間　毅(40)
城崎　芳彦(44)
林　孝靖(46)
吉原　和義(48)
澤田　英樹(49)
川俣　誠(55)
永井　譲(57)
大沼　敬正(63)
重田　博章(H6)

箱根駅伝応援委員会(6人)
◎城崎　芳彦(44)
○木間　徳也(58)
杉山　洋(58)
金子　繁夫(33)
小川　祝(33)
関水　俊明(49)

会報委員会(7人)
◎川島　清憲(46)
○吉田　弘明(54)
飯島寿賀子(47)
永井　譲(57)
杉山　洋(58)
大橋　賢也(H4)
砂川　知明(H14)

渉外委員会(5人)
◎吉原　和義(48)
・渉外担当
○筒井　博孝(47)
端山　幸雄(59)
大沼　敬正(63)
・SUC担当
○端山　幸雄(59)

総務委員会(7人)
◎小山　勝男(51)
・総務担当
○筒井　博孝(47)
斎藤　久(38)
麻生　勇(44)
花輪　晴彦(52)
重田　博章(H6)
・企画担当
○杉山　洋(58)

社会福祉活動委員会(4人)
◎八城　義友(53)
○端山　幸雄(59)
原　輝雄(H10)
長田　誠(H14)

レディース会(2人)
小林　裕子(44)
飯島寿賀子(47)

若手委員会(15人)
◎杉山　洋(58)
○川崎　隆之(62)
永井　譲(57)
本間　徳也(58)
端山　幸雄(59)
井出　豊(60)
鈴木　壮一(60)
大沼　敬正(63)
畑　克海(63)
原田　芳一(H4)
土屋　恭之(H4)
重田　博章(H6)
西尾雄一郎(H6)
原　輝雄(H10)
中島　知慧(H25)

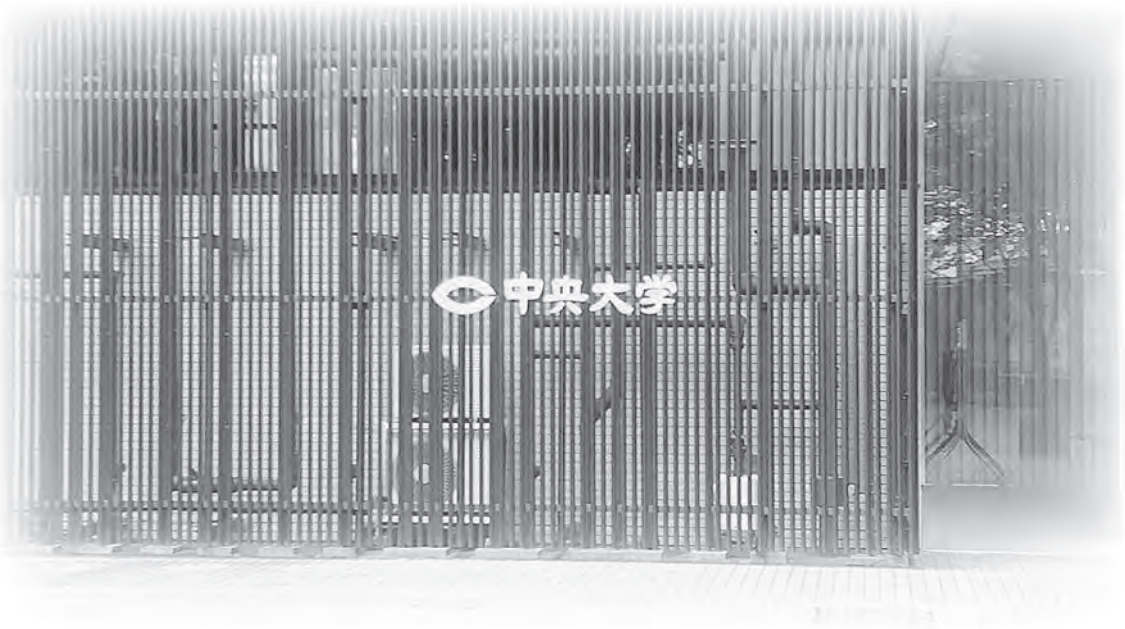
*役員協力金非対象者（平成21年～平成28年卒　現在該当者1名）

会員　中央大学学員にして、市内に在住又は在勤する者。但し、常任役員会が了承した場合は、隣接地域の在住又は在勤する者も加入することができる（会員数282名）

□新入会員（入会日順）～よろしくお願いいたします□

平成 28 年度

4 月	小松ひとみ	様	平成 12 年	文学部卒
5 月	小林　圭介	様	平成 16 年	法学部卒
5 月	端山　庸祐	様	平成 28 年	商学部卒
6 月	原　凜太朗	様	平成 28 年	法学部卒
9 月	渡辺　伸一	様	平成 9 年	文学部卒
9 月	青島　利昌	様	平成 21 年	法学部卒
10 月	難波　大貴	様	平成 27 年	法学部卒
10 月	崔　洋誠	様	平成 19 年	法学部卒
10 月	岩崎由加里	様	平成 28 年	総合政策学部卒
12 月	久保田隆司	様	昭和 50 年	理工学部卒



物故会員　謹んで哀悼の意を表します

平成 27 年度

11 月	6 日	ご逝去	左生　晴夫　様	昭和 36 年	商学部卒

平成 28 年度

5 月	7 日	ご逝去	門田　　茂　様	昭和 49 年	法学部卒
6 月	3 日	ご逝去	木村　　裕　様	昭和 28 年	経済学部卒
11 月	21 日	ご逝去	杉浦　嘉昌　様	昭和 39 年	法学部卒

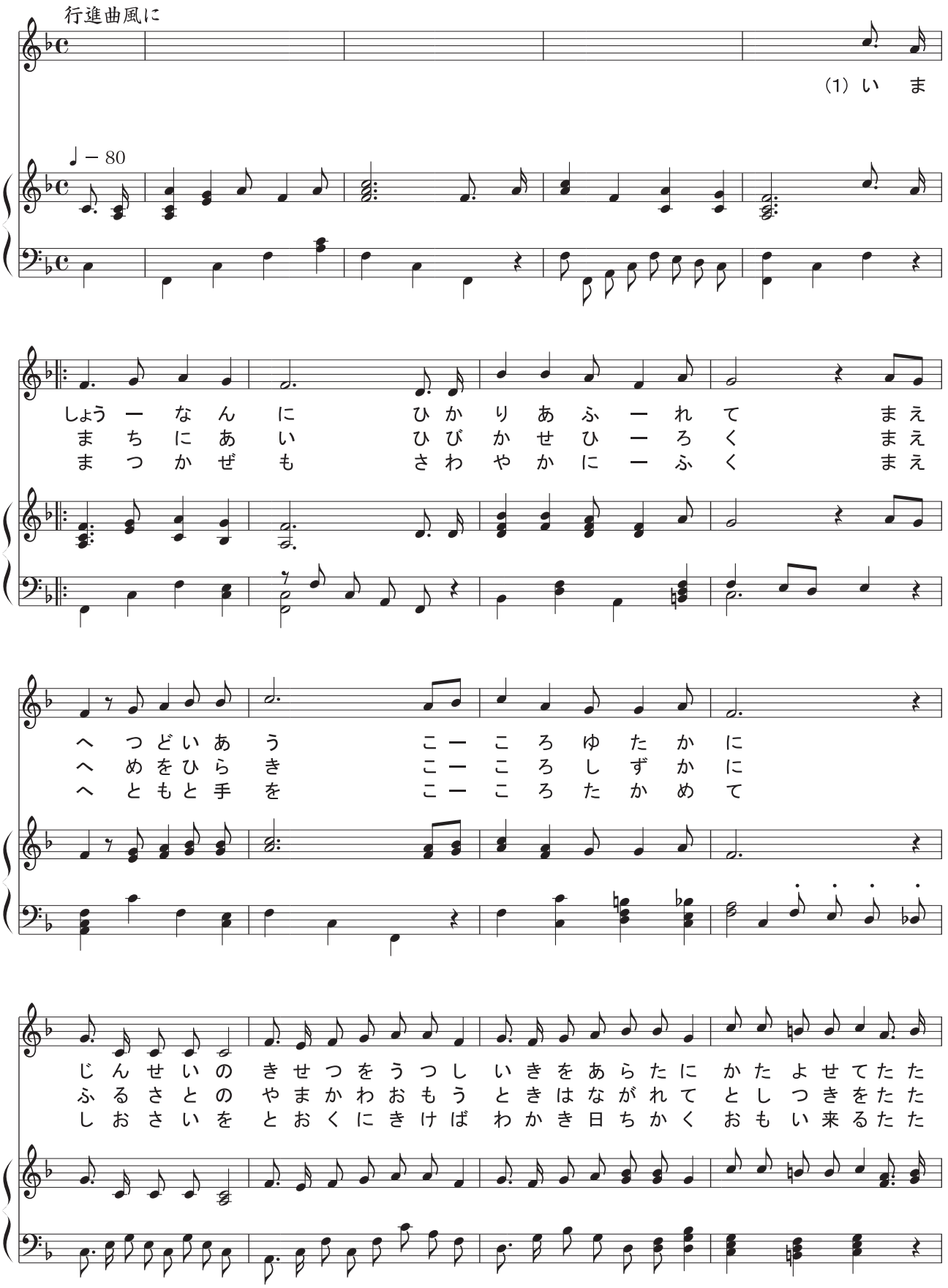
平成 29 年

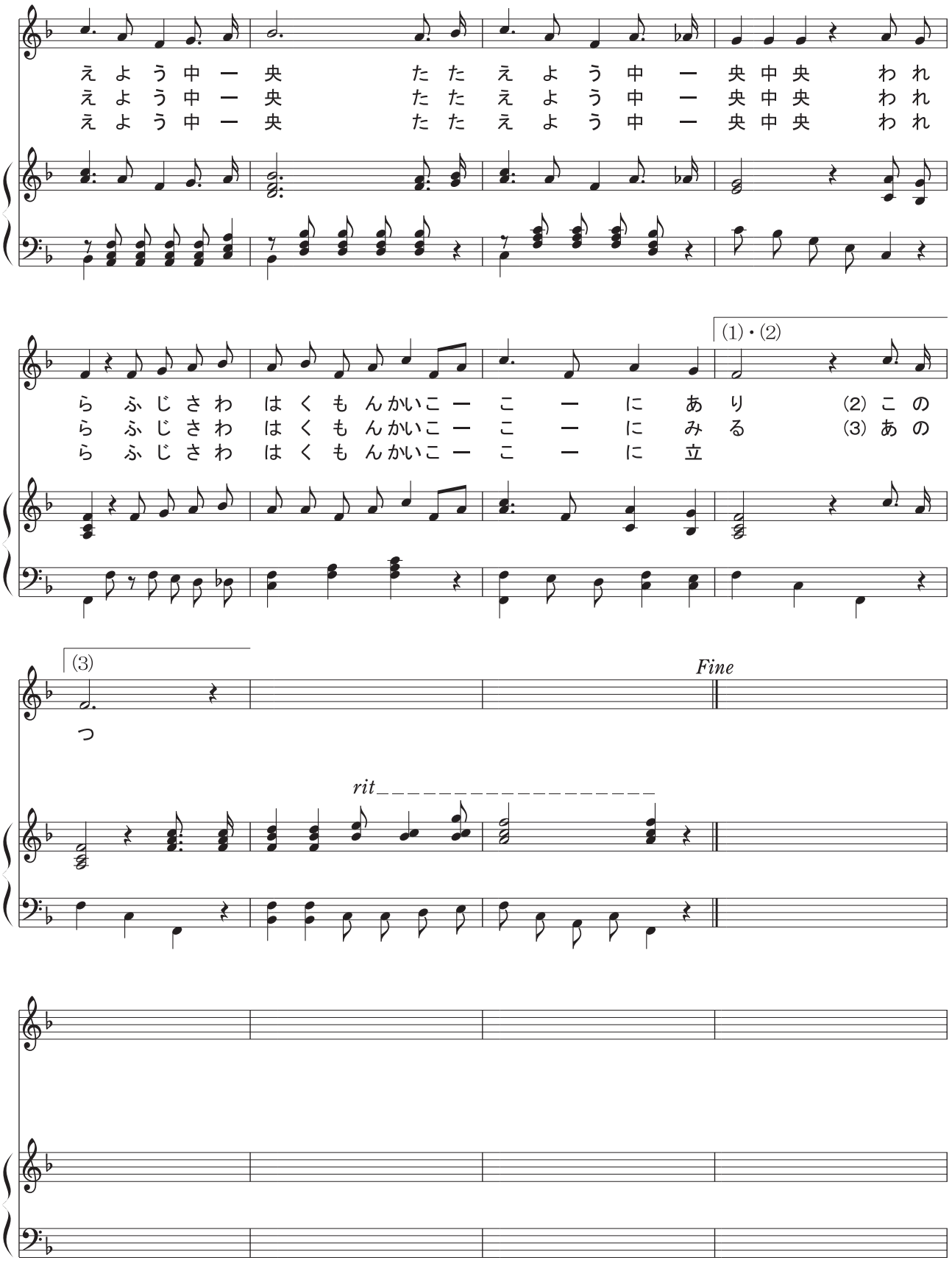
1 月	10 日	ご逝去	駒井　　登　様	昭和 35 年	法学部卒

藤沢白門会讃歌

（いま湘南に）

作詞：服部　治
作曲：藤沢 健児




えようちゅうーおう たたえようちゅうーおうちゅうおう われ
えようちゅうーおう たたえようちゅうーおうちゅうおう われ
えようちゅうーおう たたえようちゅうーおうちゅうおう われ
らふじさわ はくもんかいこーこーにあり (2) この
らふじさわ はくもんかいこーこーにみる (3) あの
らふじさわ はくもんかいこーこーにたつ
(1)・(2)
(3)
Fine
rit

藤沢白門会讃歌（新曲）

中央大学学員会藤沢支部

作詞：服部　　治

作曲：藤沢　健児

1　いま湘南に　ひかり溢れて
　前へ　集い会う
心豊かに　人生の季節を映し
　意気を新たに　肩寄せて
　讃えよう　中央　讃えよう　中央　中央
われら　藤沢白門会　ここに在り

2　この街に愛　響かせて広く
　前へ　目を開き
心静かに　ふるさとの山川思う
　時は流れて　歳月を
　讃えよう　中央　讃えよう　中央　中央
われら　藤沢白門会　ここに見る

4　あの松風も　さわやかに吹く
　前へ　友と手を
心昂めて　潮騒を遠くに聴けば
　若き日近く　想い来る
　讃えよう　中央　讃えよう　中央　中央
われら　藤沢白門会　ここに立つ

中央大学校歌

石川道雄 作詞
坂本良隆 作曲

一、草のみどりに風薫る
丘に目映き白門を
慕い集える若人が
真理の道にはげみつ、
栄ある歴史を承け伝う
ああ中央　我等が中央
中央の名よ光あれ

二、よしや嵐は荒ぶとも
揺がぬ意気ぞいや昂く
春の驕奢の花ならで
みのりの秋やめざすらむ
学びの園こそ豊かなれ
ああ中央　我等が中央
中央の名よ誉あれ

三、いざ起て友よ時は今
新しき世のあさぼらけ
胸に血潮の高鳴りや
湧く歌声も晴れやかに
自由の天地ぞ展けゆく
ああ中央　我等が中央
中央の名よ栄あれ

藤沢市の花

フジ

中央大学応援歌

中央大学学友会選定
古関祐而 作曲

あゝ中央の若き日に

一、憧れ高く空ひろく
理想の光あやなせる
あゝ中央の若き日に
伝統誇る白門の
闘い挑むはた仰げ
力、力、中央、中央

二、情熱と力の若人が
精鋭こぞりふるいたつ
あゝ中央の若き日に
雄叫ぶ血汐　紅は
闘魂たぎる火と燃える
力、力、中央、中央

三、我等が誇り覇者の歌
さんたり栄光我が生命
あゝ中央の若き日に
今ぞ座らん覇者の座に
いざ勝どきを揚げんかな
力、力、中央、中央

藤沢市の木

クロマツ

惜別の歌

作詞 島崎藤村
作曲 藤江英輔

一、遠き別れに耐えかけて
この高楼（たかどの）にのぼるかな
悲しむなかれわが友よ
旅の衣を整えよ

二、別れとといえば昔より
この人の世の常なるを
流るる水を眺むれば
夢はずかしき涙かな

三、君さやけき目の色も
君くれないの唇も
君がみどりの黒髪も
またいつか見んこの別れ

藤沢市の鳥

カワセミ

お 願 い

1 会費納入のお願い

会員各位におかれましては、日頃白門会活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

藤沢白門会は会員相互の親睦を深めるため、会員の皆様の積極的なご参加のもと、各種行事・催事を数多く開催いたしておりますが、この藤沢白門会の運営は、会員の皆様にご負担いただいております貴重な会費収入により支えられおり、今後も活動を継続していく上で、安定した会費収入は不可欠なものでございます。

ご失念のため未納付と思われる会員におかれましては、会員各位の会費により藤沢白門会の運営がなされていることをご理解のうえ、早急に納付していただきたくお願い申し上げます。なお、納付方法等につきましては、会計担当にご確認いただきたいと存じます。重ねてお願い申し上げます。

2 白門飛躍募金のお願い

会員各位におかれましては、既に学員時報等でご承知と存じますが、中央大学の中長期事業計画実現に向けて、『白門飛躍募金』のご案内がお手元に届けられていると思います。

藤沢白門会としましても、中央大学のさらなる発展に寄与すべく、会員各位に募金趣意書の趣旨をご理解いただき、寄付金のご協力を賜りたく、重ねてお願い申し上げます。

編集後記

昨年は、藤沢白門会も創立20周年を迎え、野村修也先生の公開記念学術講演会をはじめ、各記念行事も滞りなく挙行できたことは、誠に感慨深いものがあります。

創立20周年にあたり、藤沢白門会の会報も従来のB5版縦書きをA4版横書きへと装丁を変更いたしましたが、新たな装いはいかがでしたでしょうか。今後も会員各位のご意見・ご感想をいただきながら、編集の参考にしていければと思っております。

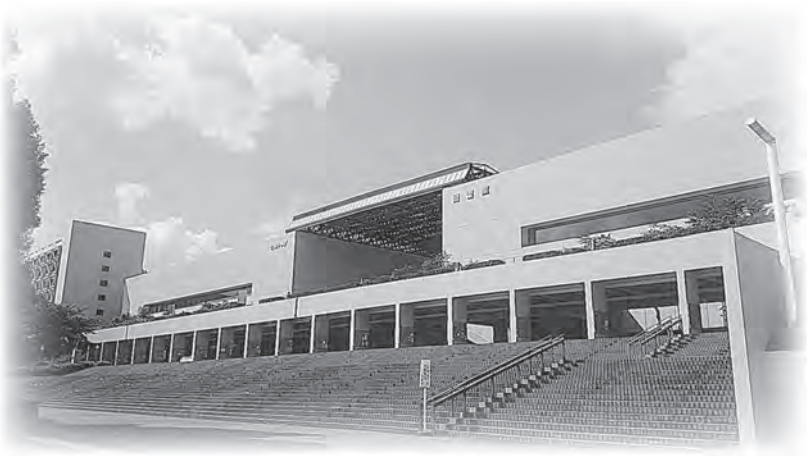
藤沢白門会の創立周年が中央大学の創立周年と5年毎の周年記念を同じ年度で迎えられるという興味深い事実を知ったところであります。今後25周年、30年と未来に向けて、会員相互の「絆」がより強固なものとなり、中央大学そして藤沢白門会をはじめ、白門会各支部の益々の発展を祈念してやみません。

長野県中信支部創立65周年記念式典に、藤沢白門会も招かれ会長はじめ10名が出席いたしました。この参加は「旅行サークル」の活動として計画され実行されたものではありますが、伝統ある長野県中信支部の創立65周年記念式典であるところから、本号におきましては、行事活動として掲載をいたしました。

また、藤沢白門会組織図は、平成28年度の組織図であり、期中の会員・役員の異動は反映しておりませんので、異動状況は会員異動欄にてご確認いただければと思います。

本誌発行にあたり、原稿を投稿していただいた会員各位そして神奈川ワークショップの坂口氏をはじめ、多大なご協力をいただきました幾多の方々に対し、末尾ながら、この場を借りて、心より御礼申し上げます。

(ポッキー)



発　行・中央大学学員会「藤沢白門会」
〒 251-0032　藤沢市片瀬 4-4-15
会　長　　片　岡　久　興
（電話・FAX　0466-26-8402）
Ｗｅｂ・http://www.fujisawa-hakumonkai.jp
編　集・「藤沢白門会」会報委員会
発行日・平成 29 年 3 月 11 日

印　刷・社会福祉法人　光友会
神奈川ワークショップ
〒 252-0826　藤沢市獺郷 1008-1
（電話 0466-48-1503　FAX 0466-48-1504）